

第3期  
「氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略」  
「氷見市人口ビジョン」(案)

令和7年12月

氷 見 市

## 目 次

### I はじめに

- 1 策定の背景・趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 策定方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 策定体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

### II 氷見市の現状

- 1 人口動態の現況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2 人口減少の要因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 目指すまちの姿と現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 3

### III 第2期氷見市人口ビジョン及び氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証

- 1 第2期氷見市人口ビジョン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 7
- 2 第2期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証・・・・ 1 8

### IV 第3期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略

- 1 基本的な策定の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 1
- 2 目指すべき姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 3
- 3 基本目標と基本的方向、具体的な施策及び主な取組・・・・ 2 3
  - (1) 基本目標Ⅰ 魅力的な地域をつくる・・・・・・・・・・・・ 2 3
  - (2) 基本目標Ⅱ 仕事をつくる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 8
  - (3) 基本目標Ⅲ 人の流れをつくる・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 1
  - (4) 基本目標Ⅳ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる・・・・ 3 5
- 4 基本目標ⅠからⅣの施策の推進を補完する取組・・・・・・ 3 8
- 5 重点的に実施する横断的な取組・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 9

### V 第3期氷見市人口ビジョン

- 1 人口の現状と将来推計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 2
- 2 人口減少が与える影響・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 3
- 3 目指すべき将来の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 4
- 4 将来の人口目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 4

# I はじめに

## 1 策定の背景・趣旨

「地方創生」の取組が10年前に開始されて以降、人口減少や東京圏への一極集中の流れが変わるまでには至っておらず、国においては、当面は人口・生産年齢人口が減少するという事態を正面から受け止めた上で、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じる必要があるとの考えのもと、「地方創生2.0」を起動させ、今後10年間で集中的に取り組む「基本構想」が策定され、その具体的な施策が「経済財政運営と改革の基本方針2025（骨太方針2025）」に盛り込まれました。

富山県では、平成29年度に総合計画「元気とやま創造計画」を策定してから7年以上が経過し、その間コロナ禍を経て、激甚化する自然災害や能登半島地震、人口減少など、富山県を取り巻く社会経済情勢が大きく変化するとともに、デジタル化・DXが加速する中、新たな課題に的確に対応し、新しい富山県の未来を描き、県民一人ひとりの豊かで幸せな暮らしを実現し、更なる成長と発展を目指すため、令和7年度中に新たな総合計画（令和7年度から令和11年度まで）を策定することとしており、県版まち・ひと・しごと創生総合戦略としても位置付けられています。

本市では、「第1期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年度から令和元年度まで）」や、「第2期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年度から令和7年度まで）」（以下「第2期総合戦略」という。）に基づいて、人口減少対策や人口が減少しても幸せに暮らせるまちづくりを進めてきており、ソフト・ハードの両面から、子育て環境の充実を図ってきたほか、移住定住施策の充実により、人口減少対策に一定の成果があったものの、若年層の進学や就職等に伴う市外への人口流出に歯止めがかかっていない状況となっています。

第2期総合戦略の策定後、新型コロナウイルスの感染拡大やエネルギー価格等をはじめとした物価高騰の長期化、能登半島地震の発生など、氷見市を取り巻く社会環境が大きく変化しています。そのため、能登半島地震から早期の復旧・復興を目指すとともに、「活力とにぎわいのある『ひみ』の創造」に向けて市全体で全力で取り組んでいくことが求められています。

これらの社会環境の変化に的確に対応し、人口の減少カーブを緩やかにするとともに、人口が減少しても幸せなまちづくりを進めるために、国や県の動向を踏まえ、オール氷見で地方創生の取組を考え、推進するため、令和7年度から令和11年度までの5年間を計画期間とした「第3期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「第3期総合戦略」という。）及び「第3期氷見市人口ビジョン」（以下「第3期人口ビジョン」という。）を策定します。

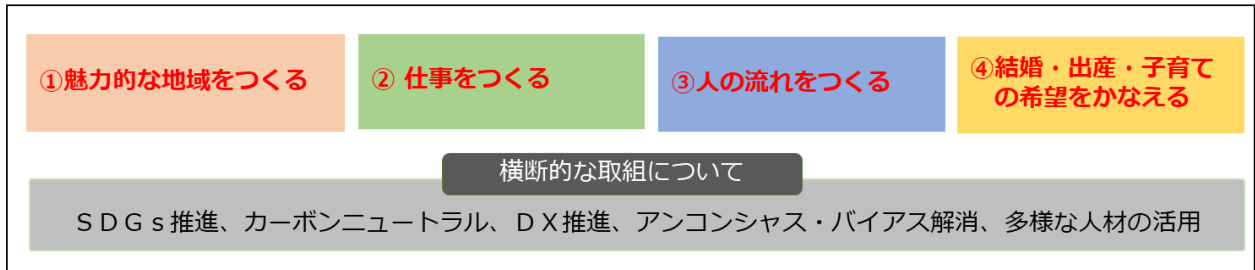
## 2 策定方針

### （1）第3期総合戦略の策定

産官学金労言などの関係団体等と連携したオール氷見による総合戦略とするため、氷見市まち・ひと・しごと創生推進協議会のもとに、若者や女性を中心とした専門部会を設置し、議論を深め、5年間（令和7年度～令和11年度）の基本目標

や基本的方向、具体的な施策等をまとめた総合戦略を策定します。

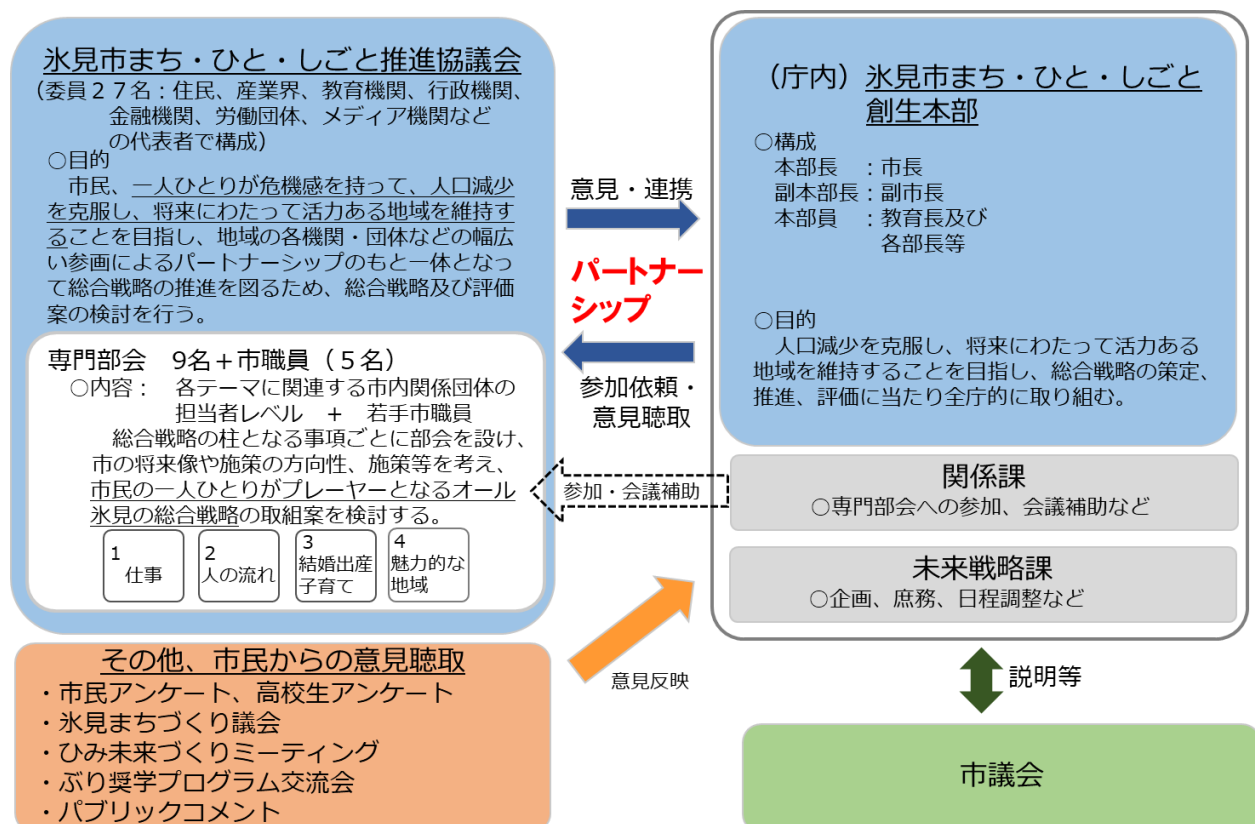
人口の減少カーブを緩やかにする「積極戦略」と、人口が減少しても幸せに暮らせるまちづくり「調整戦略」の両方の観点に基づき、国の地方創生2.0の基本構想等や県の新たな総合計画を踏まえて、以下の4つの方向性のもと策定を進めます。



## (2) 第3期人口ビジョンの策定

令和2年国勢調査の結果や国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）が令和5年12月に発表した「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）令和2年（2020年）～令和32年（2050年）」を基に、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望等を示した人口ビジョン（2050年目標）を策定します。

## 3 策定体制



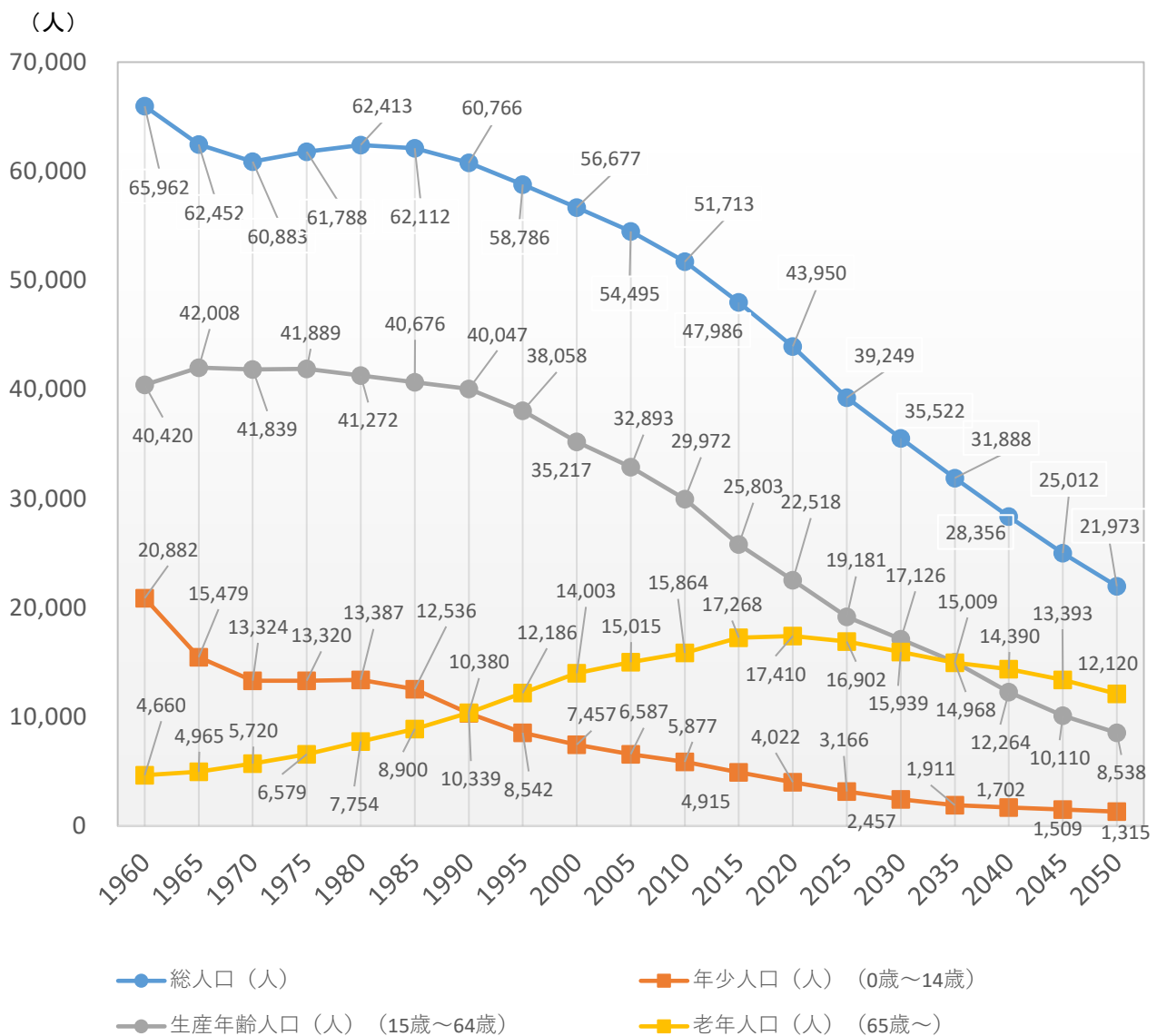
## Ⅱ 氷見市の現状

### 1 人口動態の現況

#### (1) 人口の推移と将来の見通し

本市の総人口は、1970年代の第2次ベビーブームの影響で一時的に増加した時期はあるものの、減少の一途をたどっています。特に年少人口（0歳～14歳）の減少が顕著である一方、老年人口（65歳以上）は増加を続けており、1990年には年少人口と老年人口が逆転しています。2035年には老年人口が生産年齢人口を上回り、2050年までその傾向が続くという推計になっています。

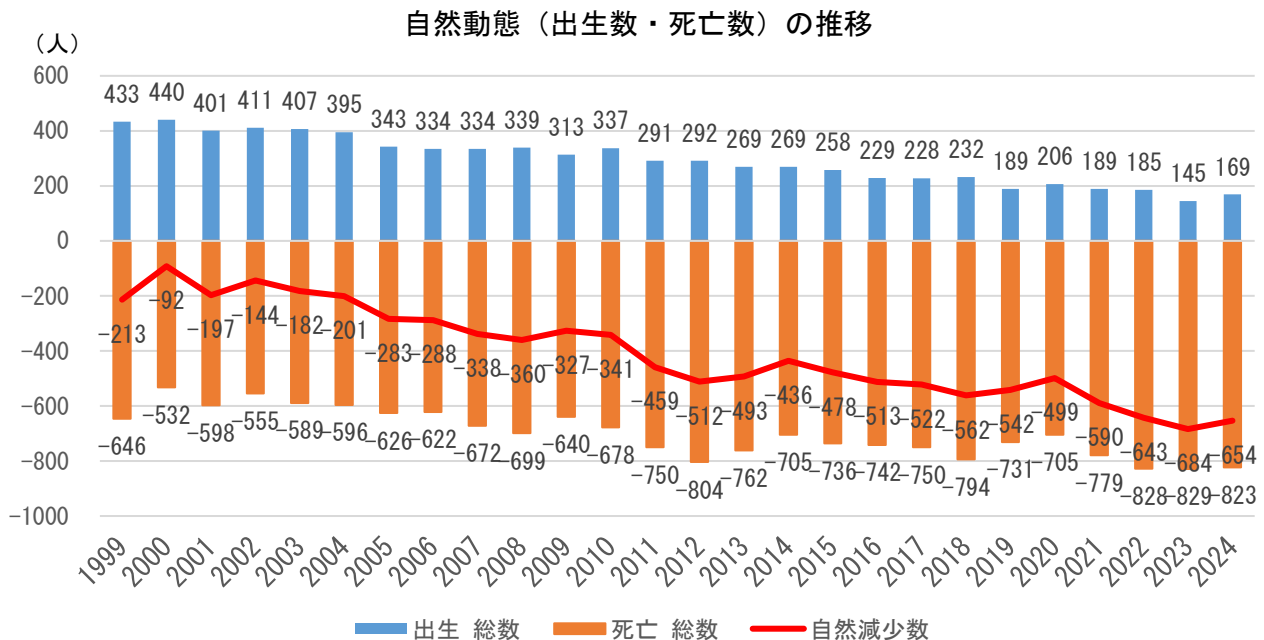
総人口・年齢3区分人口（年少人口・生産年齢人口・老年人口）の推移



※国勢調査（調査期間10月～9月）を基に氷見市で作成  
 （2000年～2015年までは数値に区分不詳分は含まず。）

## (2) 自然動態（出生数・死亡数）の推移

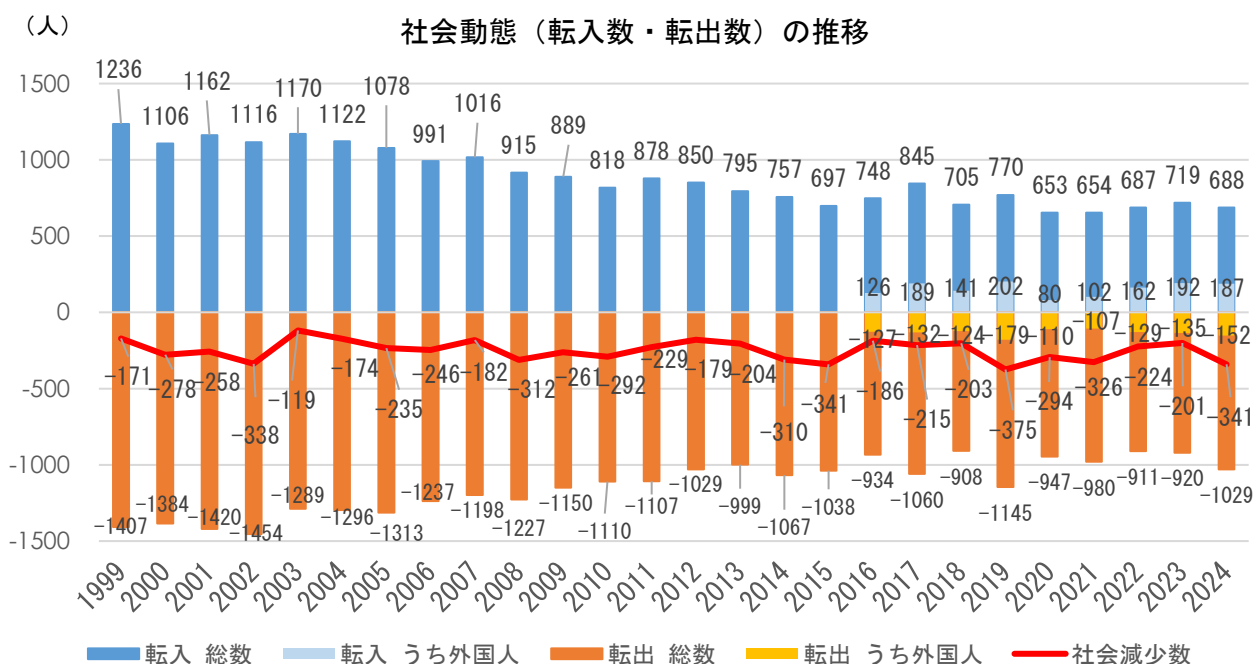
本市では、死亡数が出生数を大幅に上回っており、自然減が続いています。また、2021年以降は出生数200人以下が続いているとともに、高齢化が進み死亡数も増加傾向にあることから、減少傾向に歯止めがかかっていません。



※富山県人口移動調査（調査機関：核燃 10 月～9 月）を基に氷見市で作成

## (3) 社会動態（転入数・転出数）の推移

本市の社会動態は長期的に社会減の状態が続いています。年ごとに数の変動は見られるものの社会減の状態が続いており、社会減少が人口減少に与える影響が年々拡大しています。



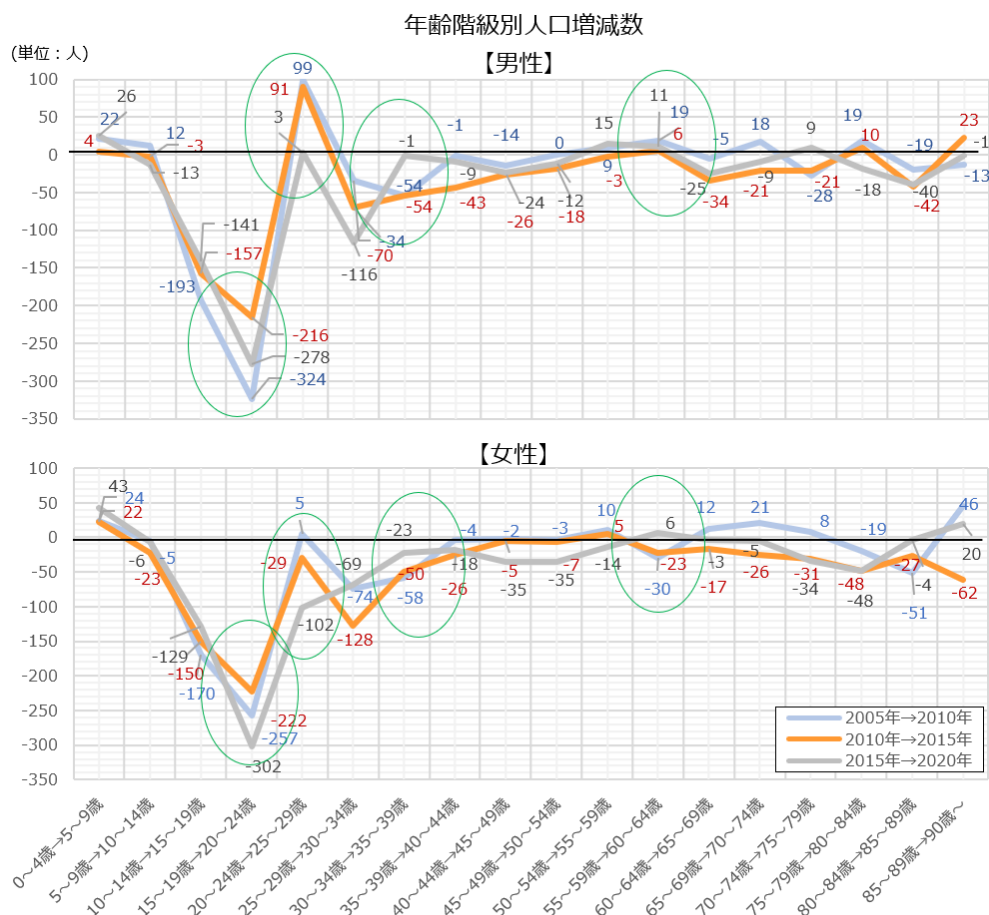
※富山県人口移動調査（調査機関：核燃 10 月～9 月）を基に氷見市で作成

## 2 人口減少の要因

### (1) 進学を機に転出した若者、特に女性に戻ってきていない

#### ① 年齢階級別人口増減の比較（ある年齢幅の人数の5年後の増減比較）

男性、女性とも15歳から19歳の方が20歳から24歳になったときに大きく人口が減少しており、大学等の進学期でもあることから、転出数が多いということが考えられます。その後、20歳から24歳の方が25歳から29歳になったときに、男性は人口増に転じますが、女性は一時的に人口増になる年はあるものの、人口減が続いています。



※RESASを基に氷見市で作成

#### ② 市内の事業所数と納税義務者1人当たりの所得額の推移

市内の事業所は減少が続いています。また、市内の納税義務者1人当たりの所得額についても令和3年以降は減少が続いています。新型コロナウイルス感染症の拡大による廃業等により、営業所得が減少したことなどが考えられます。

##### 氷見市内の事業所数の推移

	事業所数
平成24年	2,369
平成28年	2,195
令和3年	2,041

※平成24年、平成28年、令和3年経済センサス（活動調査）を基に氷見市で作成

##### 氷見市内の納税義務者1人当たりの所得額の推移

	1人当たりの所得額
令和2年度	266万円
令和3年度	271万円
令和4年度	254万円
令和5年度	247万円

※第2期総合戦略における重要目標達成指数（KGI）

③市町村民税における市町村平均所得（給与所得、営業所得及び農業所得）

市町村民税における市町村平均所得（給与所得、営業所得及び農業所得）では、本市は、県内市町村の中で最下位となっています。

市町村民税における市町村平均所得（給与所得、営業所得及び農業所得）

市町村	納税義務者数 (人)	総所得金額等 (千円)	市町村別平均所得 (千円)
富山市	169,551	611,997,996	3,610
高岡市	66,629	225,596,276	3,386
魚津市	16,468	55,081,721	3,345
氷見市	16,489	51,912,650	3,148
滑川市	14,021	46,644,970	3,327
黒部市	16,847	58,381,261	3,465
砺波市	20,505	67,906,765	3,312
小矢部市	11,090	35,505,848	3,202
南砺市	17,877	56,297,704	3,149
射水市	37,166	126,799,963	3,412
舟橋村	1,499	5,448,983	3,635
上市町	7,386	23,517,202	3,184
立山町	9,967	31,961,312	3,207
入善町	8,952	28,828,205	3,220
朝日町	3,639	11,757,627	3,231

※令和6年度富山県市町村税課税状況等の調を基に氷見市で作成

④富山で暮らすことの不安や不満

富山県に居住又は居住経験のある18歳から39歳の男女に行ったアンケート結果によると、「富山県で暮らすことの不安や不満に感じる点」について、「仕事の業種・職種が乏しい」、「仕事の待遇（給与、福利厚生等）」、「古い考え方や風習がある」の割合が高くなっています。

富山県に暮らすことの不安や不満に感じる点について

【男性】18歳～29歳

仕事の業種・職種が乏しい	35.3%
通勤	35.3%
仕事の待遇（給与、福利厚生等）	29.4%

【男性】30歳～39歳

仕事の業種・職種が乏しい	31.0%
仕事の待遇（給与、福利厚生等）	23.8%
通勤	16.7%

【女性】18歳～29歳

仕事の業種・職種が乏しい	27.1%
通勤	18.8%
古い考え方や風習がある	16.7%

【女性】30歳～39歳

仕事の業種・職種が乏しい	24.0%
仕事の待遇（給与、福利厚生等）	14.0%
古い考え方や風習がある	14.0%

※令和4年度「富山県に居住または居住経験のある若年世代等の生活実感（ウェルビーイング）」に関する調査を基に氷見市で作成

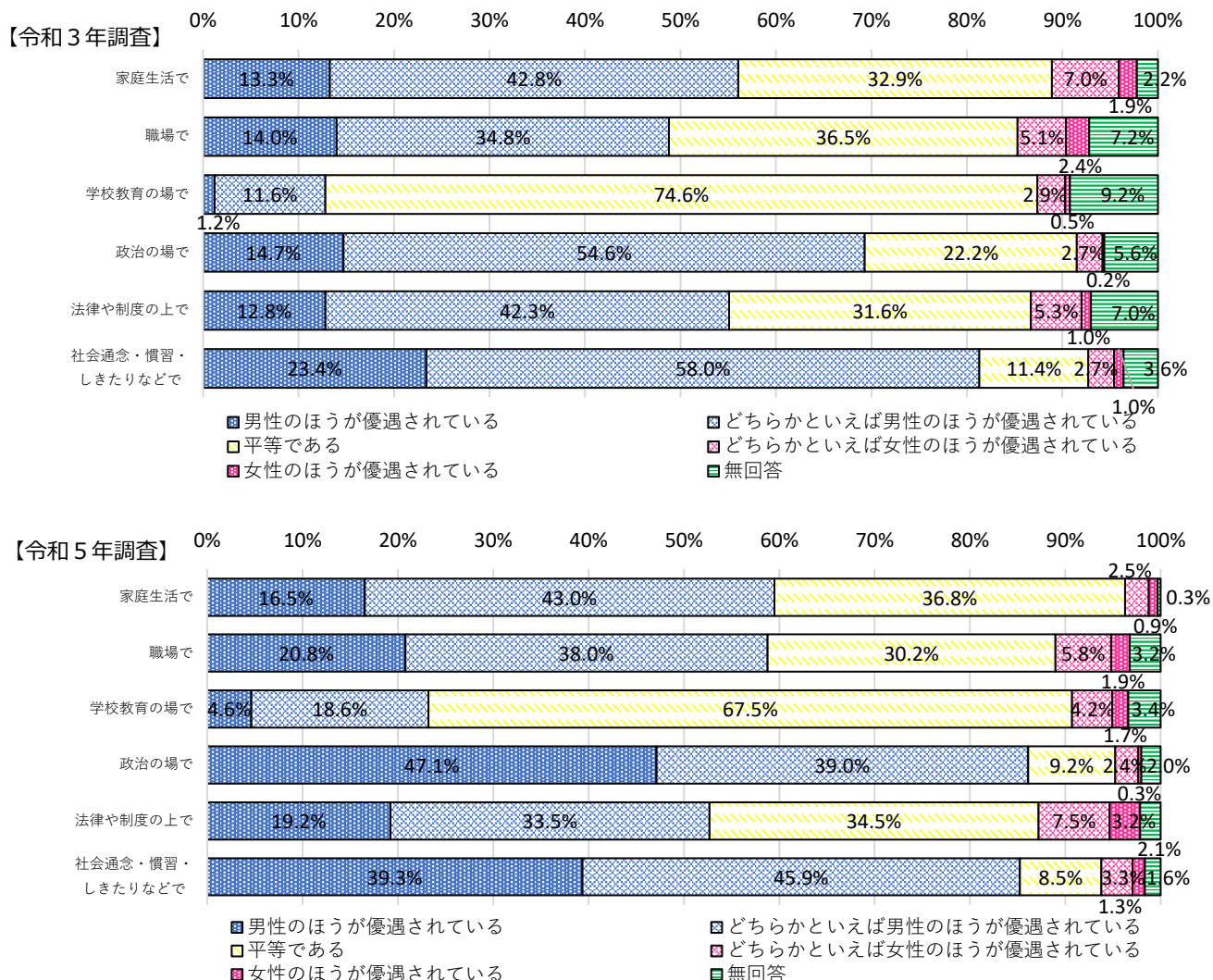


## ⑤男女の地位の平等感について【男女共同参画に関する市民アンケート結果】

令和3年度と令和5年度に行った男女の地位の平等感に関するアンケートにおいては、職場では、「男性の方が優遇されている」が48.8%から58.8%に増加し、「平等である」が36.5%から30.2%に減少しており、職場での男女の地位の平等は進んでおらず、未だに男性優遇が残っていると考えられます。

また、社会通念・慣習では、「男性の方が優遇されている」が81.4%から85.2%に増加、「平等である」が11.4%から8.5%に減少しており、地域での社会通念・慣習における男女の地位の平等は進んでおらず、未だに男性優遇が残っていると考えられます。

問2 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。



## (2) 結婚や子どもの誕生を機に家を求めるときに転出が多い

### ①市町村別県内・県外移動者数

令和5年10月から令和6年9月までの本市の転出超過（転出数－転入数）は341人となっており、県内への転出超過は230人、県外へは転出超過111人となっています。県内への転出超過は、高岡市160人、射水市41人、富山市21人の順となっています。

## 市町村別県内・県外移動者数（令和5年10月1日～令和6年9月30日）

（単位：人）

新 住 所 地																		
	富山市	高岡市	魚津市	氷見市	滑川市	黒部市	砺波市	小矢部市	南砺市	射水市	舟橋村	上市町	立山町	入善町	朝日町	県内計	県外	転出計
富山市		705	198	113	265	178	197	45	89	556	79	142	266	97	25	2,955	9,314	12,269
高岡市	604		32	122	40	29	178	80	72	548	1	7	16	14	8	1,751	3,070	4,821
魚津市	200	28		0	101	123	15	2	7	6	2	5	3	23	12	527	687	1,214
氷見市	134	282	5		2	7	22	5	5	55	3	0	5	0	0	525	504	1,029
滑川市	274	32	83	9		33	8	1	3	25	9	21	19	11	3	531	517	1,048
黒部市	244	30	152	5	58		11	5	1	15	0	6	6	72	7	612	800	1,412
砺波市	207	218	8	13	17	11		79	189	64	0	2	12	5	1	826	891	1,717
小矢部市	85	96	4	7	2	4	76		22	15	0	1	0	1	0	313	500	813
南砺市	129	98	7	8	3	4	161	43		34	2	3	4	1	1	498	725	1,223
射水市	611	508	13	14	11	14	52	14	16		5	8	12	4	1	1,283	1,441	2,724
舟橋村	50	7	1	0	1	0	0	0	0	3		4	10	0	0	76	47	123
上市町	164	11	12	1	38	11	3	0	3	9	3		32	9	1	297	220	517
立山町	252	9	10	2	17	13	5	1	4	10	8	17		4	3	355	238	593
入善町	104	9	41	0	24	80	2	4	0	6	1	4	6		23	304	268	572
朝日町	45	4	15	1	7	46	2	0	1	4	0	1	4	42		172	139	311
県内計	3,103	2,037	581	295	586	553	732	279	412	1,350	113	221	395	283	85			
県外	9,665	2,953	589	393	446	718	992	444	605	1,379	37	190	197	254	99			
転入計	12,768	4,990	1,170	688	1,032	1,271	1,724	723	1,017	2,729	150	411	592	537	184			

※富山県人口移動調査を基に氷見市で作成

## ②転入者の転入前住所の推移

本市への転入者は高岡市、富山市からが多く、県外では石川県、東京都が多くなっています。毎年、高岡市からの転入者数は全転入者数の2割以上を占めており、市民課窓口アンケートによると、転入理由は「結婚・離婚」、「住宅事情」となっています。

## 転入者の転入前住所の推移

（単位：人）

順位	2019		2020		2021		2022		2023		2024	
	地 域	転入数	地 域	転入数	地 域	転入数	地 域	転入数	地 域	転入数	地 域	転入数
1	高岡市	179	高岡市	143	高岡市	149	高岡市	132	高岡市	143	高岡市	122
2	富山市	101	富山市	75	富山市	76	富山市	105	富山市	107	富山市	109
3	石川県	65	石川県	60	石川県	58	石川県	67	石川県	67	石川県	94
4	東京都	40	射水市	41	東京都	51	射水市	37	東京都	54	東京都	36
5	射水市	35	東京都	33	射水市	34	東京都	31	愛知県	36	愛知県	21
6	愛知県	21	愛知県	19	埼玉県	19	愛知県	24	射水市	26	大阪府	21
7	新潟県	20	大阪府	19	愛知県	19	神奈川県	19	神奈川県	19	京都府	17
8	大阪府	18	神奈川県	16	千葉県	15	砺波市	18	福井県	18	射水市	15
9	砺波市	14	砺波市	16	南砺市	13	福井県	17	小矢部市	15	埼玉県	12
10	魚津市	13	小矢部市	15	福井県	13	埼玉県	14	大阪府	13	神奈川県	11
	その他	129	その他	133	その他	127	その他	141	その他	121	その他	119
	合計	635	合計	570	合計	574	合計	605	合計	619	合計	619
	(うち外国人)	80	(うち外国人)	27	(うち外国人)	59	(うち外国人)	100	(うち外国人)	116	(うち外国人)	103

※住民基本台帳人口移動報告（調査期間：各年1月～12月）を基に氷見市で作成

## ③転出者の転出先住所の推移

本市からの転出先として選択されているのは高岡市、富山市、射水市など県内が多く、県外では石川県、東京都、神奈川県が多くなっています。毎年、高岡市への

転出者数は、全転出者数の３割近くを占めており、市民課窓口アンケートによると、転出の理由は「結婚・離婚」、「住宅事情」となっています。

### 転出者の転出先住所の推移

(単位：人)

順位	2019		2020		2021		2022		2023		2024	
	地 域	転出数	地 域	転出数	地 域	転出数	地 域	転出数	地 域	転出数	地 域	転出数
1	高岡市	258	高岡市	309	高岡市	249	高岡市	219	高岡市	225	高岡市	311
2	富山市	154	富山市	116	富山市	139	富山市	115	富山市	117	富山市	129
3	石川県	88	石川県	77	東京都	74	東京都	70	石川県	65	石川県	70
4	東京都	80	東京都	65	射水市	72	石川県	67	東京都	64	東京都	65
5	射水市	56	射水市	57	石川県	67	射水市	38	射水市	64	愛知県	34
6	愛知県	37	愛知県	37	愛知県	35	愛知県	37	愛知県	36	大阪府	26
7	神奈川県	26	神奈川県	23	大阪府	32	砺波市	25	大阪府	27	神奈川県	22
8	大阪府	22	千葉県	19	神奈川県	25	大阪府	22	神奈川県	21	砺波市	19
9	砺波市	17	小矢部市	17	埼玉県	22	神奈川県	20	埼玉県	17	福井県	18
10	埼玉県	15	大阪府	17	千葉県	14	兵庫県	16	千葉県	14	埼玉県	17
	その他	170	その他	162	その他	159	その他	160	その他	177	その他	225
	合計	923	合計	899	合計	888	合計	789	合計	827	合計	936
	(うち外国人)	49	(うち外国人)	25	(うち外国人)	53	(うち外国人)	44	(うち外国人)	51	(うち外国人)	72

※住民基本台帳人口移動報告（調査期間：各年１月～１２月）を基に氷見市で作成

#### ④社会増減数の地域別内訳

転入元と転出先を差し引いた社会増減の要因となる地域別の内訳は、高岡市、射水市、富山市など県内が多く、県外では東京都が上位となっています。毎年、高岡市への転出超過は、全転出超過の３割以上を占めています。

### 社会増減数の地域別内訳

(単位：人)

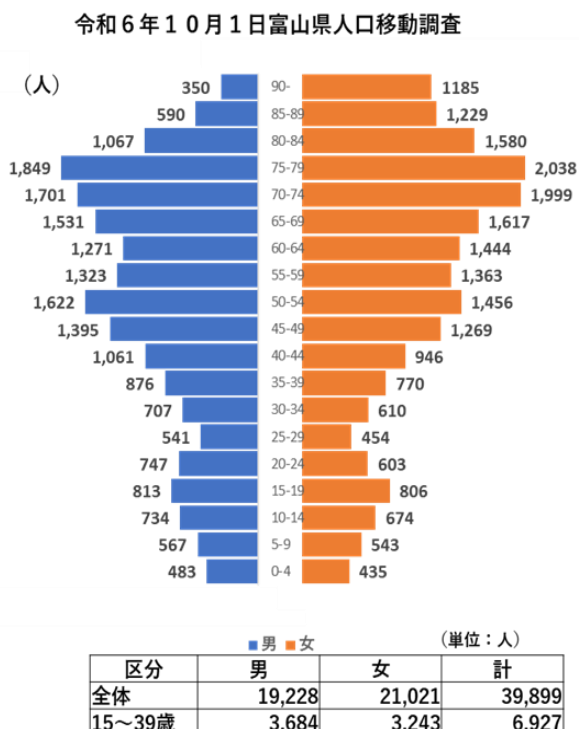
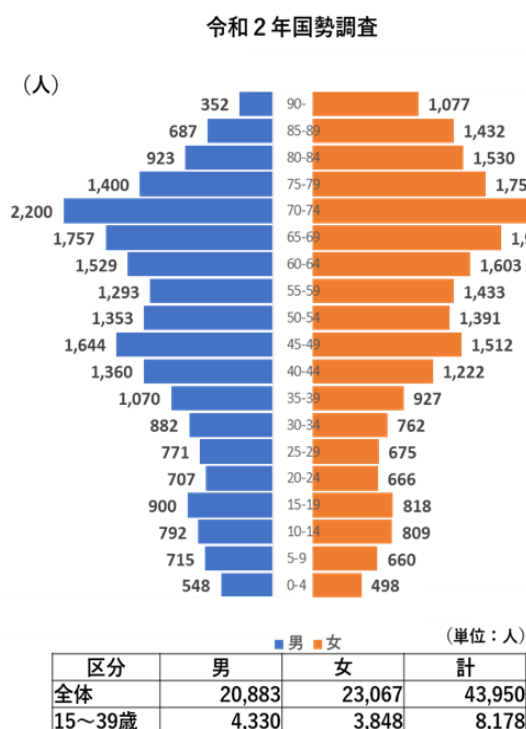
順位	2019		2020		2021		2022		2023		2024	
	地 域	社会増減数	地 域	社会増減数	地 域	社会増減数	地 域	社会増減数	地 域	社会増減数	地 域	社会増減数
1	高岡市	-79	高岡市	-166	高岡市	-100	高岡市	-87	高岡市	-82	高岡市	-189
2	富山市	-53	富山市	-41	富山市	-63	東京都	-39	射水市	-38	東京都	-29
3	東京都	-40	東京都	-32	射水市	-38	兵庫県	-16	埼玉県	-17	富山市	-20
4	石川県	-23	愛知県	-18	大阪府	-32	愛知県	-13	千葉県	-14	砺波市	-19
5	射水市	-21	石川県	-17	東京都	-23	北海道	-12	大阪府	-14	千葉県	-13
6	愛知県	-16	射水市	-16	愛知県	-16	千葉県	-12	新潟県	-13	愛知県	-13
7	埼玉県	-15	福井県	-13	神奈川県	-13	新潟県	-12	京都府	-12	新潟県	-12
8	京都府	-15	千葉県	-9	兵庫県	-13	富山市	-10	栃木県	-11	神奈川県	-11
9	神奈川県	-14	神奈川県	-7	石川県	-9	大阪府	-9	群馬県	-10	長野県	-11
10	千葉県	-12	小矢部市	-2	埼玉県	-3	砺波市	-7	東京都	-10	福井県	-7
	その他	0	その他	2	その他	3	その他	-35	その他	13	その他	-35
	合計	-288	合計	-329	合計	-314	合計	-184	合計	-208	合計	-359

※住民基本台帳人口移動報告（調査期間：各年１月～１２月）を基に氷見市で作成

### (3) 子どもの数の減少

#### ①男女別、年代別人口の推移

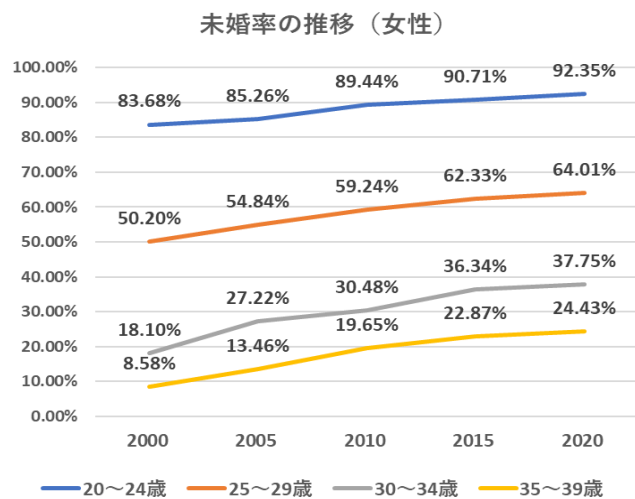
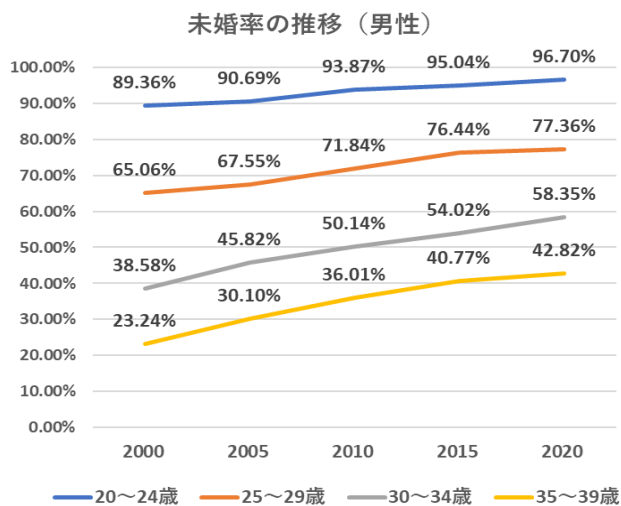
男女別の人口では、令和2年国勢調査及び令和6年10月1日の富山県人口移動調査ともに女性の人口が男性の人口を上回っています。15歳から39歳では、令和2年国勢調査が男性4,330人に対して女性3,848人、令和6年10月1日の富山県人口移動調査が男性3,684人に対して女性3,242人であり、若い世代の女性が少ない人口構造となっています。



※令和2年国勢調査、富山県人口移動調査を基に氷見市で作成

#### ②未婚率の推移

男性、女性ともに未婚率は上昇しており、晩婚化もますます進んでいます。また、総じて男性の未婚率が高くなっており、男性の30歳から34歳では約6割が未婚となっていますが、女性は30代には約7割が結婚しています。2020年では20歳から24歳の女性を除いて、すべての年代で全国平均、県平均の未婚率を上回っています。



2020年未婚率（男性）

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
全国	95.24%	72.88%	47.35%	34.54%
県	95.89%	74.18%	49.78%	36.82%
氷見市	96.70%	77.36%	58.35%	42.82%

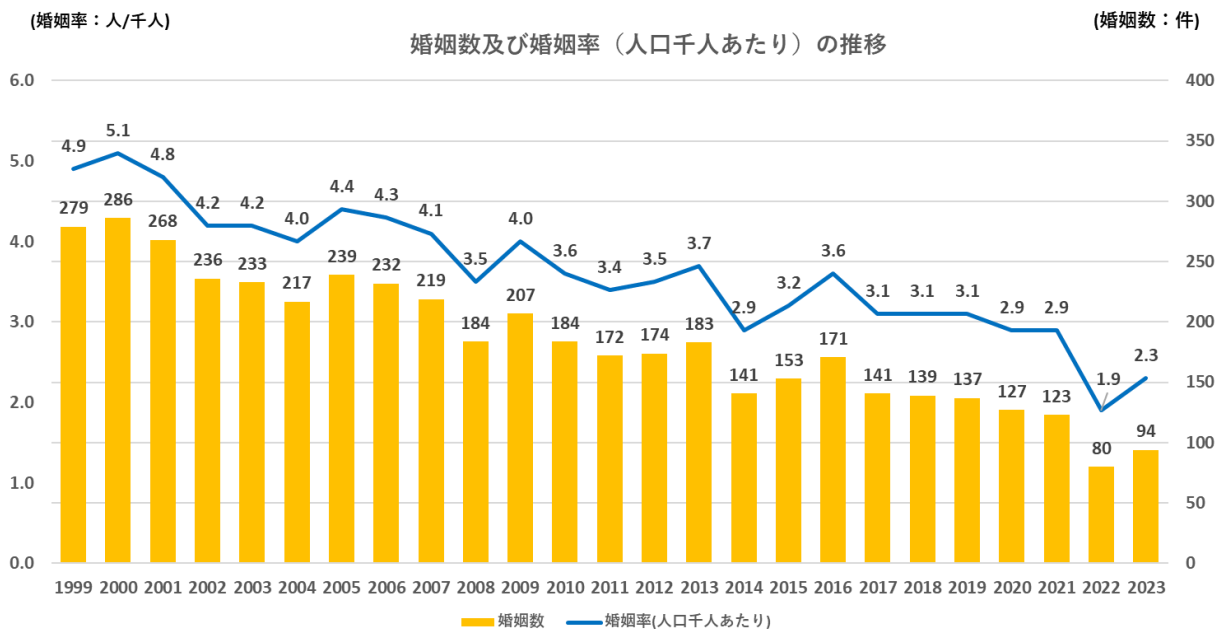
2020年未婚率（女性）

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
全国	92.34%	62.43%	35.25%	23.64%
県	92.41%	60.69%	33.35%	21.73%
氷見市	92.35%	64.01%	37.75%	24.43%

※平成12年～令和2年国勢調査を基に氷見市で作成

### ③婚姻数及び婚姻率（人口千人あたり）の推移

婚姻数は長期的に減少傾向が続いています。2022年はコロナ禍の影響による男女の交際機会が減少したこと等に伴い、婚姻数が減少したことが予想されます。



※富山県保健統計（調査期間：各年1月～12月）を基に氷見市で作成

### ④世帯あたりの子どもと第1子等の数の推移

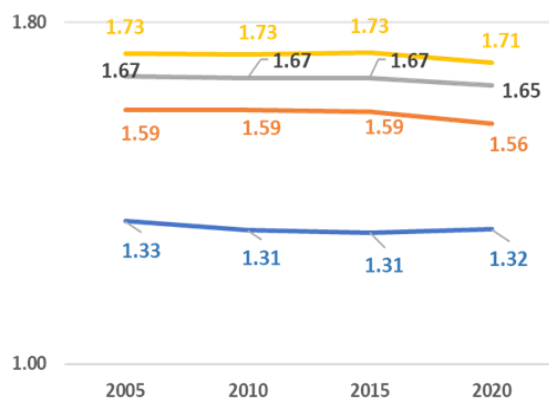
出生数・出生率が低い値となっている一方で、子どもがいる世帯における1世帯あたりの子どもの数の推移については大きな変化が見られず、出生数等の減少に大きく影響を及ぼしているものではないと考えられます。また、出生児の第1子などの属性の推移については、いずれも緩やかに減少傾向にあります。2021年に



は第1子より第2子の方が多くなり、その差が拡大しています。これは、新型コロナウイルスの感染拡大により、婚姻数が減少したことによる第1子の減少に加え、その収束による第2子の増加などによるものと考えられます。

子どもがいる世帯における1世帯あたりの子ども数

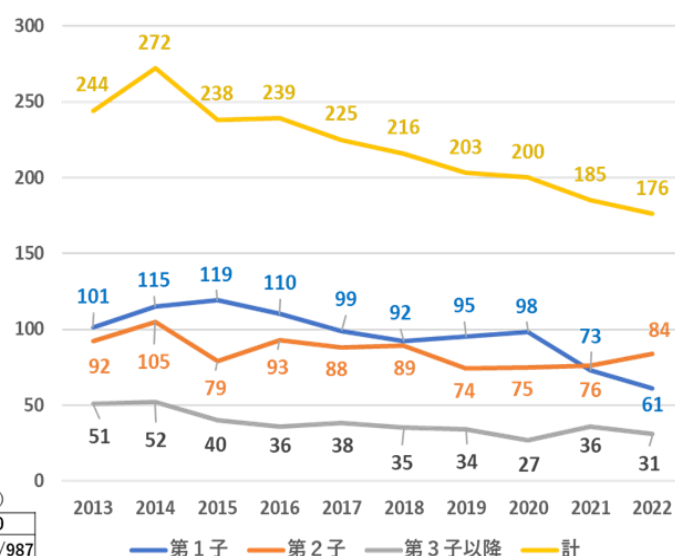
(単位：人)



	2005	2010	2015	2020
6歳未満人口/6歳未満がいる世帯	2,414/1,809	1,973/1,503	1,602/1,225	1,298/987
12歳未満人口/12歳未満がいる世帯	5,149/3,231	4,493/2,819	3,690/2,319	3,030/1,938
15歳未満人口/15歳未満がいる世帯	6,587/3,936	5,877/3,520	4,915/2,944	4,022/2,433
18歳未満人口/18歳未満がいる世帯	8,195/4,746	7,233/4,192	6,220/3,596	5,150/3,019

年別出生児の属性（第1子・第2子・第3子以降）の推移

(単位：人)

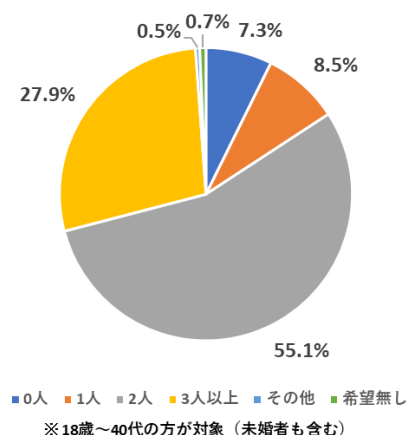


※平成17年～令和2年国勢調査、氷見市子育て応援券申請実績を基に氷見市で作成

## ⑤理想の子どもの数と予定人数【令和6年度市民アンケート結果】

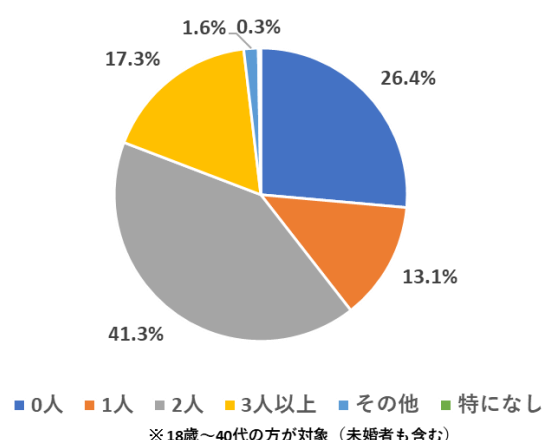
理想とする子どもの数は「2人」という回答が最も多く、「3人以上」と合わせると83.0%となっています。一方で、これから予定している子どもの数の「2人」と「3人以上」を合わせた回答が58.6%となっており、理想の子どもの人数とのギャップが生じています。

チ あなたが理想とする子どもの数を回答欄に書いてください。



○理想とする子どもの数	
0人	7.3%
1人	8.5%
2人	55.1%
3人以上	27.9%

ツ 現在のお子さんの数と、ご夫婦でこれから予定されているお子さんの数を合計した子どもの数を回答欄に書いてください。



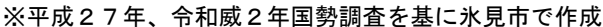
○現在のお子さんの数とこれから予定している子どもの数の合計

現在のお子さんの数とこれから予定している子どもの数の合計	割合
0人	26.4%
1人	13.1%
2人	41.3%
3人以上	17.3%

ギャップ	割合	変化率
0人	26.4%	+19.1%
1人	13.1%	+4.6%
2人	41.3%	△13.8%
3人以上	17.3%	△10.6%

(1) 安心して不便なく日常生活が送れるまち

全地区で高齢化率が上昇しています。また、市街地での人口減少や中山間地域での高齢化が加速しています。



「氷見市が好きですか」の問いに対して、「好き」と回答する人が76.8%となっています。一方で「氷見市に住み続けたい」と回答する人は、66.4%となっています。



### ③氷見市に住み続けたいと思わない理由【令和6年度市民アンケート結果】

氷見市に住み続けたいと思わない理由として「市内で楽しめる場所が少ない」、「地域の高齢化、過疎化が進んでいる」、「通勤・通学が不便」、「買い物不便」が上位を占めています。

ウ イ「氷見市に住み続けたいと思いますか。」に「4. どちらかといえばそう思わない」「5. そう思わない」と答えた方にお聞きします。その理由について、3つまで選んでください。

	18～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	未回答	総計
1 通勤・通学が不便	8	32	11	6	16	2	5	1	81
2 買い物不便	5	23	9	9	11	8	11	1	77
3 価格や利便性が適当な住宅用地が少ない	2	1	3		1		1		8
4 子育て環境が十分でない	2	6	2	3	2	2	2		19
5 教育環境が十分でない	1	3			1		1		6
6 子どもの塾や習い事の選択肢が少ない		1	3	1	0	1	1	1	8
7 市内で楽しめる場所が少ない	5	27	19	11	9	13	12		96
8 医療機関が少ない	2	6	7	7	2	3	4		31
9 地域の高齢化、過疎化が進んでいる	4	20	13	11	19	15	11	1	94
10 地域での人付き合いがわずらしい	1	7	5	1	7	4	1	1	27
11 昔ながらの慣習やしきたりが強い（年齢、性別による差がある等）	1	7	6	6	12	4	5	1	42
12 災害が不安	1	7	6	2	7	5	5		33
13 市外の子ども・親族と暮らしたい		2	3		7	1	2		15
14 その他	2	4	1	2	6	3	1		19
未回答	59	328	314	391	443	416	394	33	2,378
総計	93	474	402	450	543	477	456	39	2,934

## （２）将来に希望を持ち、いきいきと豊かに過ごせるまち

### ①まちづくりへの思いについて【令和6年度市民アンケート結果】

雇用や地域交通、移住・Ｕターン、商工業、結婚に対して重要だと考える人が多い一方で、満足している人が少ないことから、より効果的な取組が求められています。また、食文化・食育、公園整備・景観、芸術・文化などが重要だと考える人は少ないが、満足度は高く、朝日山公園（見晴らしの丘）や芸術文化館の整備、春中ハンドの開催のほか、本市が有する食や自然など他に誇れるものとして満足度の高さに繋がっているのではないかと考えられます。

○設問ケ まちづくりで重要な分野は？

順位	選択肢	割合
3	15 雇用	9.7%
6	7 地域交通	7.4%
7	9 移住・Ｕターン	6.2%
10	14 商工業	3.3%
11	18 結婚	2.8%
15	12 食文化・食育	1.7%
17	5 公園整備・景観	1.6%
20	23 芸術・文化	1.3%
21	8 自然環境	1.2%
24	24 スポーツ	0.9%

○設問コ まちづくりに対して満足している分野は？

順位	選択肢	割合
1	8 自然環境	16.2%
2	12 食文化・食育	12.2%
3	5 公園整備・景観	8.6%
6	23 芸術・文化	6.9%
10	24 スポーツ	4.2%
16	7 地域交通	1.6%
19	9 移住・Ｕターン	0.9%
24	18 結婚	0.5%
27	14 商工業	0.2%
29	15 雇用	0.1%

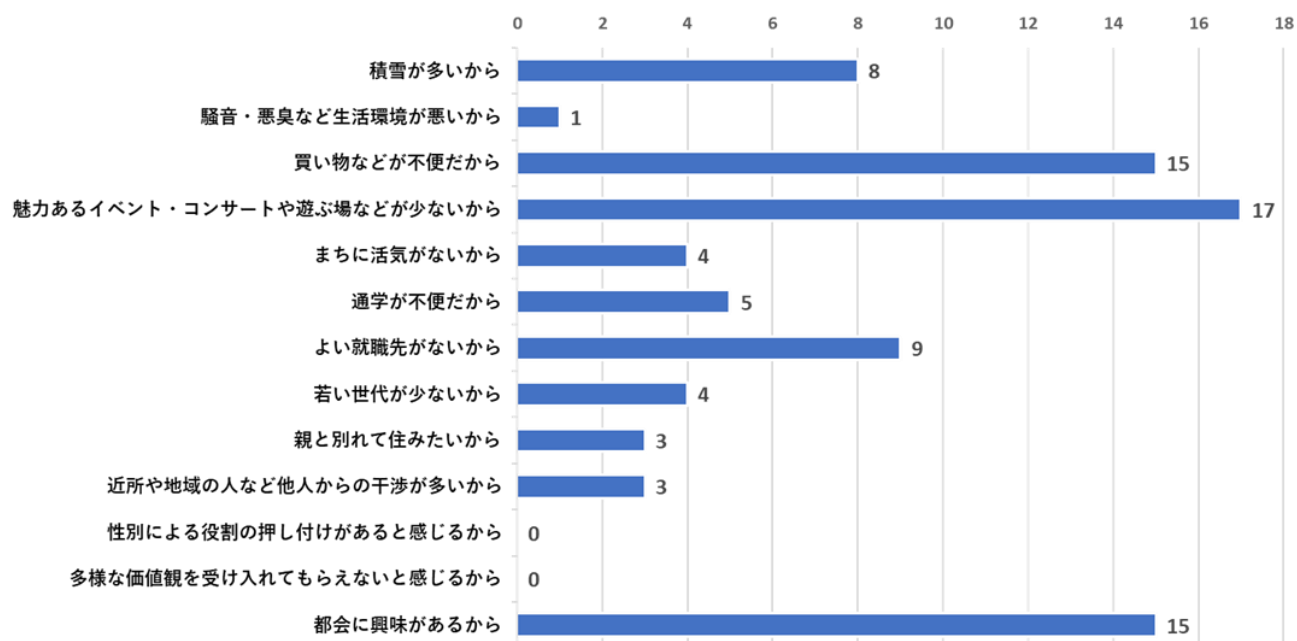
※重要度と満足度の増減割合の上位5つずつを抜粋



## ②若者の定住意向【令和6年度氷見高校2年生アンケート結果】

今住んでいる市町村に将来住みたくない理由として、「魅力あるイベント・コンサートや遊ぶ場などが少ない」、「都会に興味がある」、「買い物などが不便」、「よい就職先がない」の回答が上位を占めています。

問2-2 問2-1で「住みたくない」と回答された方にお聞きします。あなたが住みたくないと回答した理由を、次の中から3つ選んでください。



## ③若者の思い【令和6年度氷見高校2年生アンケート結果】

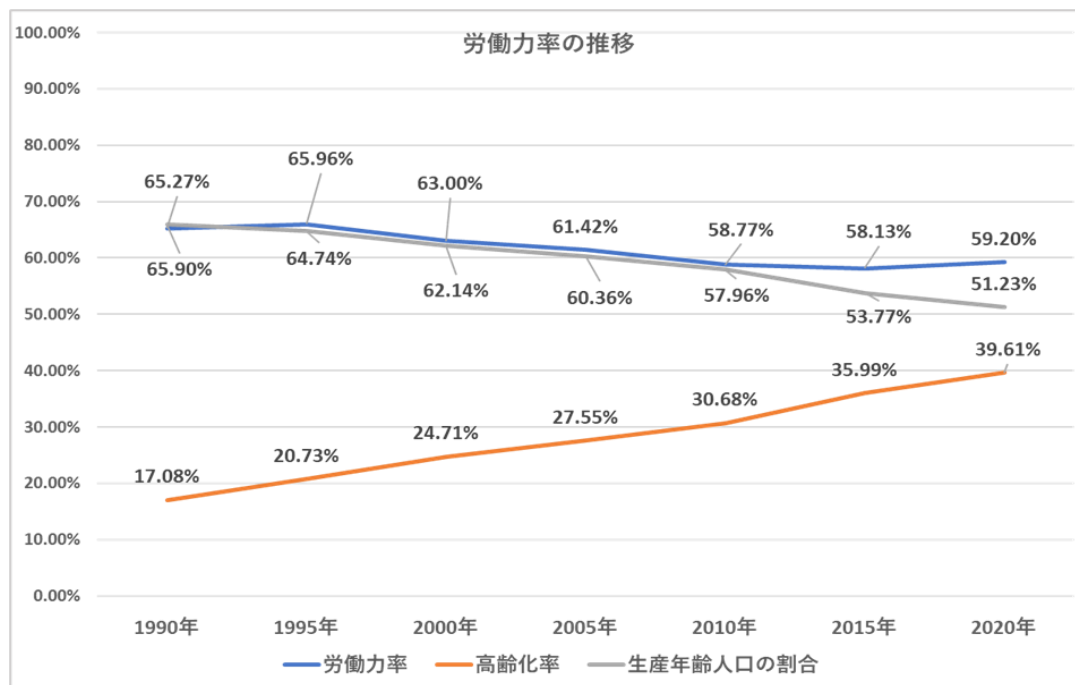
高校生にとっての「まちなかの充実に必要なこと」は、公共交通の充実、コンビニや飲食店、娯楽施設を増やしてほしいなどの回答が多くありました。

問9 高校生活を送るうえで、氷見市内のまちなかで不便だと思っていることや、もっと充実させるために必要だと思うものを自由に記述してください。

- ・電車・バスの本数が少ない
- ・コンビニを増やしてほしい
- ・氷見駅周辺にコンビニがほしい
- ・遊ぶところが少ない
- ・ショッピングモールが必要
- ・娯楽施設が足りない
- ・放課後に食べ歩きできる飲食店がない
- ・一人で集中しやすい勉強のできる空間がほしい
- ・通学路の除雪をきちんとしてほしい

#### ④労働力率の推移

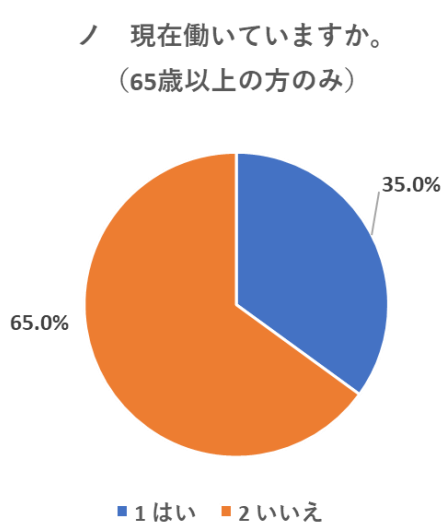
2010年までは労働力率と生産年齢人口の割合は、同様な傾向で推移してきましたが、2015年以降、労働力率は上昇しています。生産年齢人口の割合は減少していますが、年金支給の延長や定年延長などの影響により、高齢者の就業率が上昇していると考えられます。



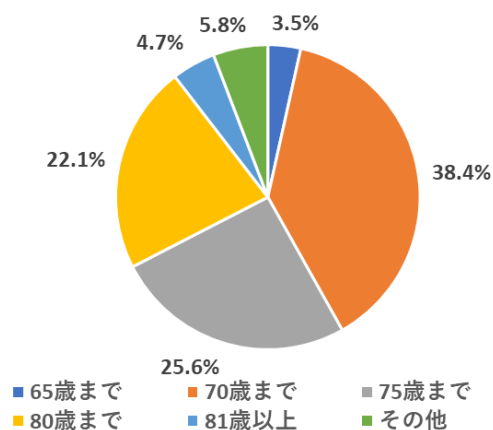
※平成2年～令和2年国勢調査を基に氷見市で作成

#### ⑤高齢者の労働意欲【令和6年度市民アンケート結果】

65歳以上で、現在働いている方が35%であり、「何歳まで働きたいですか」の問いに対して、「70歳まで」は38.4%、「75歳まで」は25.6%、「80歳まで」は22.1%、「81歳以上」が4.7%であり、少なくとも70歳までは働きたいと考えている（もしくは働いている）人は全体の90%以上、75歳までと考える人も50%以上を占めています。



ハ 何歳まで働きたいですか。  
(65歳以上で、現在働いている方)



### Ⅲ 第２期氷見市人口ビジョン及び氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証

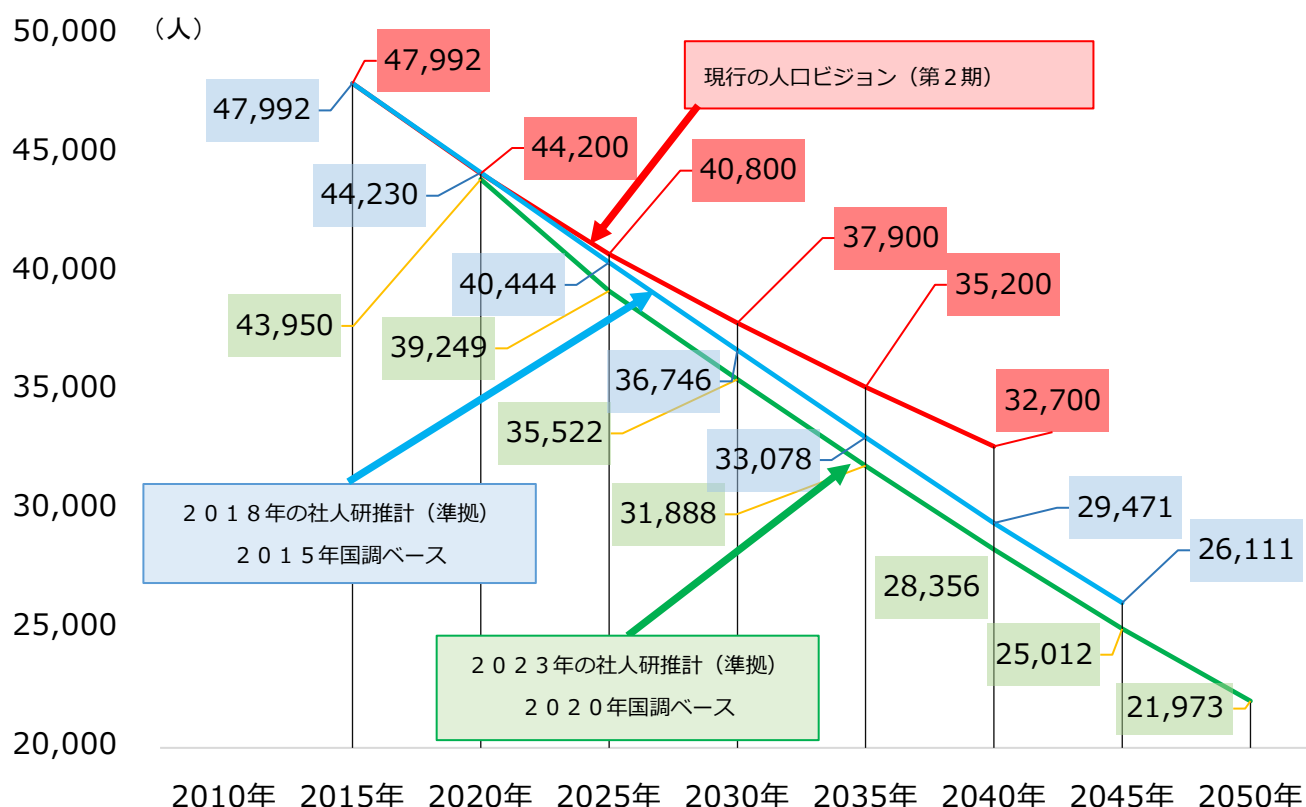
第３期総合戦略を策定するにあたり、本市の人口の現状を把握するとともに、人口の将来展望や第２期総合戦略の取組の重要目標達成指標及び重要業績評価指標について、検証を行いました。

#### １ 第２期氷見市人口ビジョン

令和２年（２０１５年）に策定した第２期氷見市人口ビジョン（以下「第２期人口ビジョン」という。）は、本市の将来人口について、人口動態が定常状態（一定規模で総人口が維持され続ける状態）となるまでの当分の間、人口の流出防止や出生率の向上などにより人口減少に歯止めをかけ将来の人口構造を変える「積極戦略」と、人口が減り続けたとしても活力ある地域を維持していくために効率的かつ効果的な社会システムを再構築する「調整戦略」を同時並行的に進め、持続可能な社会としていくための人口構造を実現できるよう、２０４０年を展望する長期の人口目標を示したものです。

第２期人口ビジョンでは、社人研による２０１８年の地域別将来推計を基にして、２０２０年以降、毎年２３０人の出生数を確保するとともに、２０４０年までに社会増減数を均衡させることで、２０４０年に総人口３２，７００人を確保することを目標としていました。

２０２５年では目標の４０，８００人に対して、直近の富山県人口移動調査結果（２０２５年１０月１日時点）が３９，２４７人となっており、また、２０２３年の社人研推計では、第２期人口ビジョンとの乖離が年々大きくなっています。



このため、第3期総合戦略の策定にあたっては、人口減少の加速化の動きを踏まえ、人口ビジョンを見直すこととし、自然動態、社会動態について、より実態に近い仮定条件のもとで将来推計を行い、25年後の2050年を展望し、目指すべき将来の方向性と人口目標を示します。

## 2 第2期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証

第2期総合戦略では、「住みたい街」、「働きたい街」、「育てたい街」の3つの基本戦略を掲げ、基本戦略ごとに重要目標達成指標（KGI）を、基本的方向に基づく施策ごとに進捗状況の判断指標となる重要業績評価指標（KPI）を定めています。

第2期総合戦略の重要目標達成指標（KGI）及び重要業績評価指標（KPI）の結果を分析し、第3期総合戦略の策定に向けた課題等を整理しました。

KGI（13指標）及びKPI（72指標）の計85指標の達成状況、基本戦略ごとの主要なKGI・KPIの実績及び要因分析は次のとおりです。

### 【重要目標達成指数（KGI）】

区分	I 住みたい街	II 働きたい街	III 育てたい街	計	
①目標を達成しているもの	2 指標	1 指標	0 指標	3 指標	23.1%
②目標を達成していないもの	3 指標	3 指標	4 指標	10 指標	76.9%
③数値の把握ができていないもの等	0 指標	0 指標	4 指標	0 指標	0%
合計	5 指標	4 指標	4 指標	13 指標	100%

### 【重要業績評価指数（KPI）】

区分	I 住みたい街	II 働きたい街	III 育てたい街	計	
①目標を達成しているもの	13 指標	9 指標	8 指標	30 指標	41.7%
②目標を達成していないもの	16 指標	15 指標	4 指標	35 指標	48.6%
③数値の把握ができていないもの等	4 指標	0 指標	3 指標	7 指標	9.7%
合計	33 指標	24 指標	15 指標	72 指標	100%

これまでの4年間の人口動態では、Uターン及び移住定住施策により、人口減少対策に一定の成果があったものの、若年層の進学・就職等に伴う市外への流出に歯止めがかかっていない状況にあり、その結果、本市の人口は第2期人口ビジョンの目標値を下回って推移しており、目標値との乖離が生じています。

その最大の要因は、若年層、特に女性の流出を防ぐための有効な対策が打てていないことにあると考えられ、第3期総合戦略では、若者や女性が将来に希望を持って暮らし続けることができるまちづくりを最重点に進める必要があります。

## 基本戦略Ⅰ 住みたい街

主要なKGI・KPI	基準値	目標値	R6実績値	要因分析
★住み続けたいと思う市民の割合	79.7%	85.0%	66.1%	令和6年能登半島地震の影響によるものと考えられる。
★若者の転出超過数（累計）	1,101人 ※H27～R1	528人 ※R2～R6	1,190人 ※R2～R6	Uターン者や移住者等による転入者が一定数あったものの、転出に歯止めがかかっていない状況である。
ぶり奨学プログラム指定措置人数（累計）	29人	84人	88人	ぶり奨学交流やぶり起業就職支援などの取組の効果によるものと考えられる。
20代・30代女性のUターン者数（年間）	70人	80人	68人	県の調査で、将来的に富山県に暮らしたいと思わない理由のトップに「仕事の業種・職種が乏しいこと」が挙げられており、女性に選んでもらえる、女性の能力を生かした仕事が少ないことが要因として考えられる。
IJU応援センターを通して移住した人数（年間）	25人	40人	15人	令和6年能登半島地震の発生とそれに伴う被災者の住まいとして、市内の賃貸住宅の需要が高まったことで、移住者に紹介できる賃貸物件が減り、移住者数が減少したことによる。
氷見きときとファンクラブ会員数（累計）	－	1,900人	2,102人	ふるさと納税の増加に伴い、寄附者からの入会が増加したことによる。

## 基本戦略Ⅱ 働きたい街

主要なKGI・KPI	基準値	目標値	R6実績値	要因分析
★納税義務者1人当たり所得（年間）	260万円	270万円	243万円	主に給与所得の減少により、合計所得額の減少が大きかったことによる。
★雇用保険適用事業所の被保険者数（年度末時点）	8,833人	9,000人	8,528人	生産年齢人口の減による。
★観光消費額（年間）	168億円	186億円	310億円	観光入込客数の増加により観光客の消費喚起が促進されたことに加え、能登半島地震による復興作業員が市内に長期滞在したことや、県外からの宿泊客が増加したことによる。
中心市街地への出店件数（累計）	3件	33件	42件	創業及びまちなか新規出店に係る経費の助成や「起業・創業セミナー」の開催などの効果による。
観光入込客数（年間）	217万人 ※コロナ禍前	196万人	210万人	団体旅行客誘致、サイクルツーリズムの推進、ひみまつりの開催支援、観光客受入体制の充実及び広域的な観光振興に取り組んだことによる。

## 基本戦略Ⅲ 育てたい街

主要なKGI・KPI	基準値	目標値	R6実績値	要因分析
★出生数（年間）	189人	230人	169人	新型コロナウイルス感染症の拡大により出生数が減少したことによる。
★子ども女性比 （女性）15～49歳	0.165	0.202	0.168	
※参考値：子ども女性比 （女性）20～44歳	0.257	0.307	0.271	
子育てや教育に不安を感じた時 身近に相談できる人がある市民 の割合	76.1%	79.4%	84.3%	子ども発達サポートセンター「くるむ」や こども家庭センターの設置等による相談業 務・支援内容の拡充による。
待機児童数（年間）	0人	0人	0人	保育ニーズに応じた利用定員の設定を行っ ていることによる。
ぶり奨学プログラム登録者数 （累計）	166人	350人	350人	18歳の方へのパンフレット送付や氷見高 校の進学説明会での説明等の取組による。
子育てと仕事が両立しやすい環 境であると感じている市民の割 合 ※中学生までのお子さんをお持ちの方対象	58.0%	65.0%	71.2%	子育て支援策の充実によるものと考えられ る。
仕事と子育ての両立ができてい ると思う市民の割合 ※中学生までのお子さんをお持ちの方のうち、 就業中の方対象	69.4%	75.0%	64.4%	子育てと仕事が両立しやすい環境であるとの 割合は上昇しているものの、中学生までのお 子さんをお持ちの方のうち、就業中の方で仕 事と子育ての両立ができていると思う市民の 割合が下降しており、子育てしやすい職場な どの環境の改善が必要だと考えられる。

## 基本戦略ごとの課題等のまとめ

戦略分類	課題等のまとめ
基本戦略Ⅰ 住みたい街 ～いのちと暮らしを守る～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「住み続けたいと思う市民の割合」が低く、定住意識を促進する取組が必要である。</li> <li>・Uターン及び移住等の施策により、転入数に一定の効果が見られたものの、若者・女性の転出に歯止めがかかっていない状況にあり、若者・女性に選ばれるまちづくりが必要である。</li> <li>・氷見きときとファンクラブ会員を活かして、移住や二地域居住につなげていく取組が必要である。</li> </ul>
基本戦略Ⅱ 働きたい街 ～働く場所の創出で元気な氷見市へ～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光消費額、観光入込客数及び中心市街地への出店件数は目標を達成したものの、氷見牛の飼育頭数など第一次産業に関する項目については目標を達成していないものが多く効果的な取組が必要である。</li> <li>・納税義務者1人当たり所得の向上についても目標は達成しておらず、「稼げる」産業の創出や高齢者の仕事づくりなど取組が必要である。</li> <li>・市内事業者へ承継に対する理解を促し、若者・女性の能力を活かして事業承継を促進する取組が必要である。</li> </ul>
基本戦略Ⅲ 育てたい街 ～ストップ・ザ・少子化～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てと仕事の両立ができていないと考えている人が多く、子育て世帯に対するさらなる支援や環境の整備に関する取組が必要である。</li> </ul>



## IV 第3期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略

### 1 基本的な策定の考え方

#### (1) 位置付け

第3期総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法第10条第1項に基づく「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」として位置付けるとともに、第9次氷見市総合計画前期計画との整合を図り、後期基本計画の策定にも活かしていきます。

#### (2) 計画期間

令和7年度から令和11年度までの5年間とします。

#### (3) 推進体制

以下の組織を中心に第3期総合戦略を推進するものとします。

・氷見市まち・ひと・しごと創生推進協議会

産学官金労言や市民団体、女性、若者、子育て世代の代表など幅広い分野の有識者で構成

・氷見市まち・ひと・しごと創生推進本部

庁内横断組織として、市長、副市長、部局長等で構成

また、氷見市まち・ひと・しごと創生推進協議会において、施策及び取組の効果や進捗状況をKPI等で毎年度検証し、見直しや改善を図るなど、PDCAサイクルを確立し、実効性のある戦略としてオール氷見で実施します。

#### (4) 専門部会やひみ未来づくりミーティングなどの対話、市民アンケートによる主な意見等

第3期総合戦略の策定にあたり、氷見市まち・ひと・しごと創生推進協議会等を通して、令和7年10月までに約1,000のご意見等をいただきました。

##### 専門部会やひみ未来づくりミーティングなどの対話、市民アンケートによる主な意見等

###### 【全体】

○市民満足度の高い分野は「自然環境」や「食文化・食育」であり、地域ブランド調査においても、本市に対する全国の評価は「自然」や「食」に対して高い結果となっている。

○震災からの復旧・復興に向けての取組

○地震や豪雨等の災害への対策

###### 【魅力的な地域をつくる】

○氷見線のひみ番屋街までの延長

○城端線氷見線の再構築事業に合わせた地域の魅力化

○駅前周辺の賑わいづくり（コンビニ、飲食店など）

○日常生活に必要な公共交通や移動販売車等の支援

○獅子舞を核とした地域コミュニティの維持

○AI技術を活用した自動運転の実装

○アート作品等を活用したまちのオシャレ化

○市内唯一の高校である氷見高校の存続

○地域による水路等の施設等の管理に対する支援

###### 【仕事をつくる】

○氷見特有の自然や景観等を活かした産業づくり

○滞在型収穫体験、農業体験できるフルーツパーク構想

○若者の雇用の場を創出する企業の誘致

○AIなどの最新技術による産業の効率化

○氷見の自然を活かしたキャンプ場やコテージでの雇用創出

###### 【人の流れをつくる】

○多様なニーズに応じた空き家の利活用

○若者や女性が住み続けられるまちづくり

###### 【結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

○子育ての更なる負担の軽減

○子どもや若者の意見を反映する仕組みづくり

○子どもの遊び場や小児科開業医の不足

## (5) 人口減少の課題とその解決の方向性

本市における人口減少の課題とその解決の方向性について、人口の減少カーブを緩やかにする「積極戦略」と、人口が減少しても幸せに暮らせるまちをつくる「調整戦略」の両方の観点に基づき、次のとおり整理しました。

### 課題等の整理

#### (1) 人口の減少カーブを緩やかにする

##### ① 主な減少の要因及びその解決の方向性

###### ア 進学を機に転出した若者、特に女性が戻ってきていない

- 要因 (ア) 就きたい仕事や業種がない →  
(イ) 仕事の待遇（給与や福利厚生）がよくない →  
(ウ) 古い考え方やしきたり等がある →

###### イ 結婚や子どもの誕生を機に家を求めるときに転出が多い

- 要因 (ア) 勤務先に近いところに家を建てる →  
(イ) 利便性のよいところに家を建てる →  
(ウ) 市内で家を建てるメリットがない →

###### ウ 子どもの数の減少

- 要因 (ア) 出生数の減少  
⇒ 婚姻数の減少 ⇒ 15～39歳の女性が男性に比べて11%少ない →  
⇒ 出会いの機会等の減少 →  
(イ) 子育て世帯の減少 →

##### ② 人口の減少カーブを緩やかにするための方向性

###### ア 移住の促進 →

###### イ 関係人口の拡大や二地域居住の促進 →

#### <解決の方向性>

- ・本市の特長を活かした魅力的な新たな産業づくり
- ・市産業全体で稼ぐ力アップ（労働生産性の向上）
- ・市全体のアンコンシャスバイアスの解消

- ・市内での魅力的な仕事づくりや処遇改善
- ・氷見線再構築事業や氷見駅からの交通確保による利便性の向上
- ・居住地として若者や子育て世帯に選ばれる優位性の確保

- ・女性がリターンしやすい環境整備（アのとおり）
- ・個々のニーズに対応した多様な出会いの機会創出
- ・市内で家を建てる環境の整備（イのとおり）
- ・子育ての負担の更なる軽減・環境の更なる向上

- ・ I J U 応援センターの機能の拡充
- ・ 地域の魅力化・発信力の強化

#### (2) 人口が減少しても幸せに暮らせるまちをつくる

##### ① 目指すまちの姿、現状及び解決の方向性

###### ア 安心して不便なく日常生活が送れるまち

- 現状 (ア) 医療が受けられる環境が必要 →  
(イ) 免許返納等による交通弱者の移動手段の確保が必要 →  
(ウ) 地域に商店などが無くなり不便 →  
(エ) 担い手の減少により地域の維持が困難 →

###### イ 将来に希望を持ち、いきいきと豊かに過ごせるまち

- 現状 (ア) 人口減少により衰退し、将来に希望が持てない  
(イ) 高齢化率が上昇し、現役世代の割合が減少している  
(ウ) 納税者の平均所得（給与所得・営業所得・農業所得）は県内で最下位の低さ

#### <解決の方向性>

- ・ 医療体制の確保
- ・ 地域交通の確保

- ・ 日常生活に必要な買い物の手段の確保
- ・ 地域を維持するための D X ・ 機械化等の促進
- ・ 地域の担い手の育成・新たな担い手の確保（移住者や関係人口等）

- ・ 本市の魅力・発展につながるプロジェクトの実施
- ・ みんなが健康で働ける環境の整備
- ・ 市産業全体で稼ぐ力のアップ（労働生産性の向上）



## 2 目指すべき姿

### 「食」や「自然・景観」をブラッシュアップして活かし、 将来に希望を持って若者や女性が活躍するまち

人口の減少のカーブを緩やかにするとともに、たとえ人口が減少しても幸せに暮らせるまちをつくるため、「能登半島地震からの復興」及び「活力とにぎわいのある『ひみ』の創造」に向けて、これまで前例にないことや困難な課題等に対してチャレンジして前へ進め、その実現にオール氷見で取り組みます。

それにより、本市の特長である「食」や「自然・景観」をブラッシュアップして、まちづくりや産業などに活かすとともに、将来に希望が持てる魅力的なまちをつくり、若者や女性に選ばれ、活躍する氷見市をつくります。

## 3 基本目標と基本的方向、具体的な施策及び主な取組

### (1) 基本目標Ⅰ 魅力的な地域をつくる

本市の特長である「食」及び「自然・景観」や、氷見線の利便性向上等を活かした未来につながる賑わいを創出してまちの魅力を発信するとともに、安心して不便のない日常生活を守り、地域コミュニティを維持することで、将来に希望が持てる魅力的な地域をつくります。

【重要目標達成指標 KGI】	基準値	目標値
住み続けたいと思う市民の割合 ※	66.1% (R6)	85.0% (R11)

※市民アンケートによる。「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合計した割合

### ①基本的方向1 将来に希望が持てるまちをつくる

本市の特長である「食」及び「自然・景観」や、城端線・氷見線鉄道事業再構事業による利便性の向上等を活かし、本市の魅力・発展につながる取組を実施して、若者や女性が将来に希望が持てるまちをつくります。

【重要業績評価指標 KPI】	基準値	目標値
将来に希望が持てると思う市民の割合 ※	—	85.0% (R11)

※市民アンケートによる。「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合計した割合

### ア 具体的施策1 本市の特長である「食」及び「自然・景観」を活かしたまちづくりを進めて発信し、多くの人が訪れる魅力的なまちをつくる

### 【主な取組】

- 食を核としたまちづくりの推進  
食を核としたまちづくりを推進するため、体制を強化するとともに戦略を策定して、産業の振興や人材育成・確保など、総合的に取り組みます。
- 自然・景観を活かしたP a r k－P F Iの実施（導入）の検討  
民間参入による都市公園等の魅力及び利便性の向上を図り、公園を核とした周辺地域の活性化につなげます。
- 自然・景観を活かしたキャンプ場やコテージ等の整備への支援  
里山・里海の特長を活かした多くの人々が訪れ、賑わいの創出につながる施設等の整備を支援します。
- 自然・景観を活かしたスポーツイベント・レジャーの推進  
海あり山ありの豊かな自然、美しい景観を望みながら楽しめるスポーツイベントの開催やレジャーの定着を推進します。
- 食や自然・景観を活かした飲食施設や宿泊施設等の整備への支援  
古民家などの空き家を活用した飲食施設や民泊施設など多様な用途への整備を支援します。
- 景観を活かしたホテル等の整備の促進  
空き家・空き地に関する相談から活用までに対応するため、専門家等による総合的体制を構築し、景観を活かしたホテル等の整備を促進します。
- 若者や女性が訪れたいまちなか活性化に向けた支援  
氷見駅前周辺でのマルシェの開催や、まちなかの空き地の利活用などにより、若者や女性が訪れ、滞留する場の創出を支援します。
- 若者や女性に選ばれる観光地魅力化の推進  
温泉・食・景観・自然・まんが等を有機的に結合させ、氷見に行きたくない、若者や女性に選ばれる観光地の魅力化を推進します。

## イ 具体的施策 2 城端線・氷見線鉄道事業再構築事業による利便性の向上等を活かし、本市の活性化につなげる

### 【主な取組】

- 氷見線の利用促進と利便性向上を活かした賑わい空間の整備  
氷見駅周辺のまちづくりを進めるとともに、駐車場整備や氷見駅を基点とした二次交通等の利便性向上を図り、賑わいを創出します。
- 氷見駅からひみ番屋街までの新交通システムの検討  
観光需要の拡大や市街地の賑わい、移動の利便性の向上に向けて、新交通システムを検討します。
- 氷見線の新駅設置とその周辺地域の活性化に向けた検討  
氷見線の新駅の設置による利便性の向上や、その周辺での開発による地域の活性化に向けて検討を行います。

## ウ 具体的施策 3 若者や女性に好まれる景観づくりを推進する

### 【主な取組】

- 氷見らしさを活かしたワクワクする魅力的な景観づくりの推進  
沿道での景観形成への支援や市街地での住民意向の把握を進め、人々の期待感や歓迎感等を促す魅力的な景観づくりを推進します。
- 海辺の魅力を活かした空間づくりの推進  
氷見の特長である海辺空間の整備と演出を支援し、人々の滞在・来訪を促進して地域の魅力を高めます。
- 若者や女性に選ばれる観光地魅力化の推進【再掲】

## ②基本的方向 2 地域の持続性を確保する

地域医療や地域交通、買い物手段を確保して、安心で不便のない日常の暮らしを守るとともに、地域のDX・機械化等の促進やアンコンシャスバイアスの解消、地域の魅力化を進めて発信することで、地域への愛着を育み、地域の担い手の確保・育成による地域コミュニティの維持につなげて、地域の持続性を確保します。

【重要業績評価指標 KPI】	基準値	目標値
安全で安心して暮らし続けられると思う市民の割合※	—	85.0% (R11)

※市民アンケートによる。（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合計した割合）

## ア 具体的施策 1 金沢医科大学氷見市民病院を核として地域の医療を守るとともに、交通空白地を解消するためなどの地域公共交通の確保や、移動販売の支援等により日常の暮らしを守る

### 【主な取組】

- 金沢医科大学氷見市民病院と市内医療機関との連携による地域医療の確保  
金沢医科大学氷見市民病院と市内医療機関との連携により、地域医療の持続性に向けた検討と取組を推進します。
- NPOバスの運行の維持確保と交通空白地の解消  
NPOバスの運行体制の強化や利便性の向上を図るとともに、交通空白地の解消に努めます。
- 移動販売持続化への支援による高齢者見守り体制の充実  
移動販売に必要な経費を支援してその持続化を図るとともに、高齢者の見守り体制の充実を図ります。

## イ 具体的施策 2 地域のDX・機械化等を促進するとともに、地域の担い手を育成する

### 【主な取組】

- 地域のD X化・機械化への支援の拡充  
地域へのデジタル導入・機械購入への支援や、スマホ教室の拡充等の取組を行い、地域運営の効率化を促進します。
- 地域の担い手の確保と強化  
地域の次世代リーダー研修の実施や、若手人材との関わりを創出し、担い手育成と地域力の強化を図ります。

## ウ 具体的施策3 地域のアコンシャスバイアスの解消や地域の魅力化を進める

### 【主な取組】

- アコンシャスバイアス解消に向けた戦略の策定とその推進  
アコンシャスバイアス解消に向けて戦略を策定するとともに、講演会の開催等により、理解の促進を図ります。
- 地域資源の活用と交流促進イベント及び効果的な発信への支援  
地域資源を活かしたイベントによる地域外との交流を促進するとともに、地域の魅力発信により、地域への来訪促進を支援します。

## エ 具体的施策4 地域への愛着を育む地域と連携したふるさと教育を充実する

### 【主な取組】

- 小学校、中学校及び義務教育学校における地域と連携した活動への支援  
学校ごとに地域と連携した特色のあるふるさと教育を支援するほか、中学校に地域連携事業コーディネーターを派遣し、総合的学習を充実します。
- 氷見高校の教育魅力化への支援  
地域連携事業コーディネーター委託、海外派遣事業やD X加速化推進事業を支援して氷見高校の魅力を高めるとともに、地域活性化につなげます。
- ふるさとの学びが深化する子どもの意見等の発表機会の創出  
子どもたちの意見を発表する場を設け、ふるさとへの更なる理解を育む学びの機会を創出します。

## オ 具体的施策5 地域コミュニティの維持に向けて獅子舞等の持続性を確保し、その魅力等を発信する

### 【主な取組】

- 獅子舞等の保存継承に向けた支援  
獅子舞等の実施地域への支援や、新たな実施につなげる活動への支援を行うなどして、獅子舞等の伝承と、それによる地域の活力化を図ります。

●獅子舞の魅力発信や次世代育成に向けた支援

市内の獅子舞の状況を把握し、魅力を発信するとともに次世代育成のための獅子舞教室の開催等を検討・実施し、獅子舞の持続性を支援します。

**カ 具体的施策 6 高齢者も含め、いつまでもみんなが健康で働いて稼げる環境をつくる**

**【主な取組】**

●高齢者の就労促進に向けた環境整備への支援

設備導入や就労機会の拡大に向けた取組、職場環境の整備を支援し、高齢者の社会参加につながる働きやすい環境づくりを促進します。

●高齢者等へのスポットワークの創出への支援

市内事業所等の業務を細分化し、外部移管可能な業務と適した人材をマッチングさせる仕組みを構築して、柔軟な働き方の創出を支援します。

## (2) 基本目標Ⅱ 仕事をつくる

本市の特長である「食」及び「自然・景観」を活かした新たな産業を創出するほか、個々の産業において、若者や女性の能力等の活用やD Xの促進により労働生産性を向上させて稼ぐ力を強化し、若者や女性が働きやすく、活躍できる魅力的な仕事をつくります。

【重要目標達成指標 KGI】	基準値	目標値
納税義務者 1 人当たりの年間所得額（給与所得額等）※	3, 1 4 8 千円 (R 6)	3, 5 0 9 千円 (R 1 1)

※給与所得額、営業所得額及び農業所得額による。

### ①基本的方向 1 本市の特長を活かした産業を振興して魅力的な仕事をつくる

本市の特長である「食」及び「自然・景観」を活かし、観光、飲食、宿泊及び農林水産業等が一体となって市全体の産業を振興して、新たな産業の創出等により魅力的な仕事をつくります。

【重要業績評価指標 KPI】	基準値	目標値
創業・継業・まちなか出店の件数	9 件 (R 6)	7 5 件 (R 7 ～ R 1 1 の累計)

### ア 具体的施策 1 本市の特長である「食」及び「自然・景観」を活かした観光、飲食、宿泊及び農林水産業等が一体となって新たな産業を創出する

#### 【主な取組】

- 氷見らしい農林水産業の体験型観光コンテンツの構築  
里山での果樹等の農産物や竹等の林産物の活用体験、里海での養殖による水産物の水揚げ体験など、氷見らしい体験型観光コンテンツを構築します。
- 豊かな食材を活用した商品開発への支援  
農産物や畜産物、水産物などの氷見の豊かな食材を活かし、食のブランド化や観光客等に好まれる商品開発を支援します。
- 海越しの立山連峰や里山の風景などを望むホテルやオーベルジュ等の誘致  
海越しの立山連峰や棚田などの里山景観と、氷見の豊かな食材を活かし、宿泊と飲食ができるホテルやオーベルジュ等の誘致に取り組みます。
- 海辺を活かした新たなビジネスの開発・運営等への支援  
本市の海辺の環境を活かしたマリンスポーツなどの新たなレジャービジネスの創出や、その運営等を支援します。
- 自然・景観を活かしたキャンプ場やコテージ等の整備への支援【再掲】

## ②基本的方向2 産業全体を活性化し、稼ぐ力を強化する

個々の産業において、若者や女性の能力等を活かすとともに、DXを促進して労働生産性を向上させて産業全体の活性化を図り、給与などの労働条件の改善につなげるなど、市内産業の稼ぐ力を強化します。

【重要業績評価指標 KPI】	基準値	目標値
担い手への農用地集積率	49.7% (R6)	55.6% (R11)

### ア 具体的施策1 個々の産業において、若者・女性の能力等を活かすとともに、DXを促進して労働生産性を向上させ、給与などの労働条件の改善につなげる

#### 【主な取組】

- スマート農業の普及等による農業所得の向上への支援  
新規就農者への機械導入の支援や、スマート農業の普及に向けたモデル地区での実証実験等により、労働生産性を高め農業所得の向上を図ります。
- 氷見牛の生産基盤の強化  
就労環境の改善による担い手の確保や氷見牛の頭数を確保するため、関係機関と共同利用施設や経営体の検討を進め、生産基盤の強化を図ります。
- 漁獲量の増加につなげる養殖業の推進  
養殖業の可能性に挑戦し、養殖技術の確立による収益の確保を支援して、本市の漁獲量の増加につなげます。
- 漁業就業支援フェアへの出展等による新規漁業就業者への支援  
漁業就業支援フェアへの経営体の出展を支援するほか、新規漁業就業者の就業定着までの期間の家賃を支援します。
- 海辺を活かした新たなビジネスの開発・運営等への支援【再掲】

## ③基本的方向3 若者・女性が働きやすく、活躍できる職場をつくる

職場でのアンコンシャスバイアスの解消を図るとともに、就業環境や労働条件、子育てしやすい職場環境などの改善を促し、若者や女性が働きやすく、活躍できる職場をつくります。

【重要業績評価指標 KPI】	基準値	目標値
男女の地位は平等になっていると考える市民の割合 (職場で) ※	29.7% (R6)	43.0% (R11)

※男女共同参画に関する市民アンケートによる。(「平等である」と回答した割合)

## **ア 具体的施策 1 若者や女性に魅力的な企業や研究所等を誘致する**

### **【主な取組】**

- 若者や女性に選ばれる企業や研究所等の誘致  
企業立地への支援の拡充や試行的事業への支援により、I T系や食品系など、若者や女性に選ばれる企業や研究所等の誘致に取り組みます。
- 海越しの立山連峰や里山の風景などを望むホテルやオーベルジュ等の誘致  
【再掲】
- 海辺を活かした新たなビジネスの開発・運営等への支援【再掲】

## **イ 具体的施策 2 若者や女性におけるアンコンシャスバイアスを解消するとともに、就業環境や労働条件、子育てしやすい職場環境などの改善を促進する**

### **【主な取組】**

- アンコンシャスバイアス解消に向けた戦略の策定とその推進【再掲】
- 若者や女性のキャリアアップへの支援  
仕事の専門性向上に必要となる経費を支援することで、若者や女性のキャリアアップを後押し、市内企業への就職やその後の定着を促進します。
- 若者や女性が働きやすい職場の環境整備への支援  
子育て支援や若者の採用・育成等に取り組む事業所を対象に、厚生労働省の認定制度の取得や、職場環境の整備を支援します。
- 若者や女性へのスポットワークの創出への支援  
市内事業所等の業務を細分化し、外部移管可能な業務と適した人材をマッチングさせる仕組みを構築して、柔軟な働き方の創出を支援します。
- 子どもの放課後活動の充実への支援  
放課後児童クラブの子どもの受入体制等の向上に向けて検討するとともに、子どもの放課後活動の豊かな学びの機会の充実を支援します。



### (3) 基本目標Ⅲ 人の流れをつくる

移住・Ｕターンへの伴走的な支援や移住しやすい環境等の充実を図るとともに、若者や女性に選ばれる魅力的な地域や仕事づくりを進めて魅力発信することで、移住・Ｕターンの促進や交流人口・関係人口の拡大を図るほか、市内で住み続けやすい環境等を整備して、移住やＵターンから定住につなげる人の流れをつくります。

【重要目標達成指標 KGI】	基準値	目標値
若者（１５歳～３９歳）の社会増減数	△２４６人 (R 6)	△９３人 (R 11)
若者（１５歳～３９歳）のうち女性の割合	４６．８％ (R 6)	４７．１％ (R 11)

#### ①基本的方向１ 若者や女性に選ばれ、移住者やＵターン者を増やす

氷見市ＩＪＵ応援センターの機能や移住しやすい環境等の充実を図るとともに、若者や女性が働きやすく活躍できる魅力的な仕事づくりや、ぶり奨学プログラムの拡充、氷見高校の入学生の全国募集等により、若者や女性など、より多くの移住やＵターンにつなげます。

【重要業績評価指標 KPI】	基準値	目標値
若者（１５歳～３９歳）の年間の転入数	４４５人 (R 6)	４９６人 (R 11)
ＩＪＵ応援センターを利用して移住した年間の人数	１５人 (R 6)	６０人 (R 8～R 11の毎年度)

#### ア 具体的施策１ 氷見市ＩＪＵ応援センターの機能や移住しやすい環境等の充実を図り、より多くの移住・Ｕターンにつなげる

##### 【主な取組】

##### ●氷見市ＩＪＵ応援センターの機能拡充

氷見市ＩＪＵ応援センターの体制を強化して、相談や発信等を充実して、移住・Ｕターンを促進します。

##### ●移住に対する支援の拡充

移住する若者や新婚世帯、子育て世帯への支援を拡充して、移住・Ｕターンを促進し、市内での定住につなげます。

##### ●移住を受入れる地域への支援

移住者の受入れに意欲的な地域の受入体制や活動、環境整備、交流促進イベント、地域の魅力発信などの取組を支援します。

- 移住につながるシェアハウスやシェアオフィスの整備の促進  
移住を希望する人向けの空き家・空き地を活用したシェアハウスやシェアオフィスの整備を促進し、移住につなげます。
- 住宅団地造成への支援の拡充  
市内での住宅団地造成を行う者への支援を拡充し、住宅用地を確保して、市内での定住につなげます。

## イ 具体的施策 2 基本目標Ⅱの施策と連動して、仕事から若者や女性の移住やUターンにつなげる

### 【主な取組】

- 海越しの立山連峰や里山の風景などを望むホテルやオーベルジュ等の誘致【再掲】
- 海辺を活かした新たなビジネスの開発・運営等への支援【再掲】
- 若者や女性に選ばれる企業や研究所等の誘致【再掲】
- アンコンシャスバイアス解消に向けた戦略の策定とその推進【再掲】
- 若者や女性のキャリアアップへの支援【再掲】
- 若者や女性が働きやすい職場の環境整備への支援【再掲】
- 若者や女性へのスポットワークの創出への支援【再掲】

## ウ 具体的施策 3 ぶり奨学プログラムの拡充を図り、社会人となった後のUターンの促進にもつなげる

### 【主な取組】

- ぶり奨学プログラムの拡充  
プログラムへの登録要件を拡充するほか、交流会の内容の充実と大学等を卒業した登録者への情報発信を強化して、若者のUターンを促進します。
- 氷見に貢献したい若者による自主的な取組への支援  
市内外の氷見に貢献したいと思う若者をつなげて、意欲のある活動的な若者たちがまとまって氷見に貢献・応援する自主的な取組を支援します。

## エ 具体的施策 4 氷見高校の入学生の全国募集を支援し、第二のふるさとづくりに寄与する

### 【主な取組】

- 氷見高校の入学生の全国募集への支援  
氷見高校の教育魅力化の一環として、入学者の全国募集に向けた受入環境の整備のための様々な取組を進めます。
- 第二のふるさととしての意識の醸成への支援  
市外から氷見高校に通う生徒が氷見とのつながりを深め、第二のふるさと

どのように意識してもらえよう、地域との交流活動等を支援します。

## ②基本的方向 2 市内に定住する若者や女性などを増やす

市内での定住に対する住宅取得等への支援の拡充や、住宅団地造成への支援による住宅用地の確保のほか、空き家・空き地の多様な用途への活用を促進するなど、本市で住み続ける環境を整備して、若者や女性などの市内での定住を促進します。

【重要業績評価指標 KPI】	基準値	目標値
若者（１５歳～３９歳）の 市内定着率 〔１５～３９歳人口／１０ 年前の５～２９歳人口〕	７５．８％ (R 6)	７９．１％ (R 11)

### ア 具体的施策 1 定住に対する支援の拡充や空き家・空き地の活用、宅地造成の促進など、本市で住み続ける環境を整備する

#### 【主な取組】

#### ●住宅取得やリフォームへの支援の拡充

住宅取得や住宅リフォームに要する経費への支援について、新婚世帯及び子育て世帯に対する支援を拡充します。

#### ●住宅団地造成への支援の拡充【再掲】

## ③基本的方向 3 観光などの交流人口や関係人口、二地域居住者を増やす

本市の特長である「食」及び「自然・景観」を活かして魅力的な地域や仕事をつくり、その魅力を発信することで観光などによる交流人口や関係人口の拡大を図るとともに、関係性を深化させ、地域の担い手の確保や二地域居住を促進します。

【重要業績評価指標 KPI】	基準値	目標値
年間の観光入込客数	２１０万人 (R 6)	２３０万人 (R 11)
氷見きときとファンクラブ 会員数	２，１０２人 (R 6)	４，２００人 (R 11)

### ア 具体的施策 1 基本目標Ⅰ及びⅡの施策と連動して交流人口を増やすとともに、地域の魅力化や発信力の強化等により関係人口や二地域居住者を増やす

## 【主な取組】

- 食を核としたまちづくりの推進【再掲】
- 自然・景観を活かしたパークPFIの実施（導入）の検討【再掲】
- 自然・景観を活かしたキャンプ場やコテージ等の整備への支援【再掲】
- 自然・景観を活かしたスポーツイベント・レジャーの推進【再掲】
- 若者や女性が訪れたくなるまちなか活性化に向けた支援【再掲】
- 若者や女性に選ばれる観光地魅力化の推進【再掲】
- 氷見線の利用促進と利便性向上を活かした賑わい空間の整備【再掲】
- 氷見駅からひみ番屋街までの新交通システムの検討【再掲】
- 氷見線の新駅設置とその周辺地域の活性化に向けた検討【再掲】
- 氷見らしさを活かしたワクワクする魅力的な景観づくりの推進【再掲】
- 海辺の魅力を活かした空間づくりの推進【再掲】
- 氷見らしい農林水産業の体験型観光コンテンツの構築【再掲】
- 海越しの立山連峰や里山の風景などを望むホテルやオーベルジュ等の誘致【再掲】
- 海辺を活かした新たなビジネスの開発・運営等への支援【再掲】
- 氷見に貢献したい若者による自主的な取組への支援【再掲】
- 氷見のファンの拡大と関わりの深化による氷見への貢献の促進  
氷見に思い入れがある人を募り、関係人口を拡大するとともに、その関係性を深化させ、地域の担い手の確保や二地域居住を促進します。
- テレワークや会議等が可能となるコワーキングスペース等の整備への支援  
空き家を活用したコワーキングスペース等の整備を支援するほか、サテライトオフィスの誘致に取組み、二地域居住を促進します。

#### (4) 基本目標Ⅳ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

若い女性の移住・Ｕターン・定住を促進し、多様な出会いの機会を創出して結婚の希望をかなえるとともに、働きやすい職場環境の整備や住宅取得等への支援、学校給食費への支援、子どもの放課後活動の充実、子どもの遊びの場の整備の推進、市内の小児医療体制の充実など、子育て支援や子育て環境の更なる充実を図り、出産・子育ての希望をかなえます。

【重要目標達成指標 (KGI)】	基準値	目標値
幸せと感じている子育て世帯の割合 ※	—	85.0% (R11)

※市民アンケートによる。「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合計した割合

##### ①基本的方向 1 結婚数を増やす

若者や女性に選ばれる魅力的な地域や仕事づくりを進めて魅力発信することで、若い女性の移住・Ｕターンや定住を促進し、オール氷見で多様な出会いの機会を創出するとともに、新婚世帯への祝金の支給や住宅取得等への支援の拡充などにより、結婚数を増やします。

【重要業績評価指標 KPI】	基準値	目標値
年間の婚姻数	94件 (R5)	96件 (R11)

#### ア 具体的施策 1 基本目標Ⅱ及び基本目標Ⅲの施策と連動して、若い女性の人口を増やす

##### 【主な取組】

- 氷見らしい農林水産業の体験型観光コンテンツの構築【再掲】
- 海越しの立山連峰や里山の風景などを望むホテルやオーベルジュ等の誘致【再掲】
- 海辺を活かした新たなビジネスの開発・運営等への支援【再掲】
- アンコンシャスバイアス解消に向けた戦略の策定とその推進【再掲】
- 若者や女性のキャリアアップへの支援【再掲】
- 若者や女性が働きやすい職場の環境整備への支援【再掲】
- 若者や女性へのスポットワークの創出への支援【再掲】
- ぶり奨学プログラムの拡充【再掲】
- 住宅取得やリフォームへの支援の拡充【再掲】

#### イ 具体的施策 2 個々のニーズに応じた多様な出会いの機会の創出を促進する

### 【主な取組】

- オール氷見での出会いの機会の創出  
市内の個人や団体等が実施する婚活イベントへの支援を行い、個々のニーズに応じた出会いの機会をオール氷見で創出します。
- 移住婚による結婚の促進  
移住婚希望者の氷見を訪れるための交通費を支援して、出会いの機会を創出することで、市内での結婚を促進します。

## ウ 具体的施策 3 結婚・出産・子育ての更なる負担の軽減を図る〔結婚〕

### 【主な取組】

- 新婚世帯への経済的な負担の軽減  
市内在住の若者の新婚世帯に対して結婚祝金を支給し、転入者であれば祝金を加算して支給します。
- 住宅取得やリフォームへの支援の拡充【再掲】

## ②基本的方向 2 出生数を増やす

出産・妊娠時に係る費用への支援や、働きやすい職場環境の整備への支援、住宅取得等への支援の拡充のほか、子どもへの安心・安全な居場所づくりや子どもの放課後活動の充実、児童生徒の学校給食費への支援などの子育て支援を充実させ、出生数を増やします。

【重要業績評価指標 KPI】	基準値	目標値
年間の出生数	155人 (R7)	159人 (R11)

## ア 具体的施策 1 結婚・出産・子育ての更なる負担の軽減を図る〔出産〕

### 【主な取組】

- 出産・妊娠時の経済的な負担の軽減  
遠方の分娩取扱施設での受診や出産の必要がある妊産婦に対して、施設までの交通費や出産待機のための宿泊費を支援します。
- 学校給食費への支援  
小学校、中学校、義務教育学校に通う児童生徒の学校給食費への支援を行います。
- ぶり奨学プログラムの拡充【再掲】
- 住宅取得やリフォームへの支援の拡充【再掲】
- 子どもへの安心・安全な居場所づくりの充実  
子どもへの安全・安心な場を開設し、生活習慣の形成や学習のサポー

ト、進路などの相談支援を行います。

- 子どもの放課後活動の充実への支援【再掲】
- アンコンシャスバイアス解消に向けた戦略の策定とその推進【再掲】
- 若者や女性が働きやすい職場の環境整備への支援【再掲】
- 若者や女性へのスポットワークの創出への支援【再掲】

### ③基本的方向 3 転入による子どもの数を増やす

子どもへの安心・安全な居場所づくりや、子どもの放課後活動の充実、児童生徒の学校給食費への支援などのほか、子どもの遊び場などの整備の推進や、市内の小児医療体制の充実などにより、子育て環境の更なる充実を図り、転入による子どもの数を増やします。

【重要業績評価指標 KPI】	基準値	目標値
子ども（０歳～１９歳）の 年間の転入数	９４人 (R 6)	１０２人 (R 1 1)

#### ア 具体的施策 1 結婚・出産・子育ての更なる負担の軽減を図る〔子育て〕

##### 【主な取組】

- 学校給食費への支援【再掲】
- ぶり奨学プログラムの拡充【再掲】
- 住宅取得やリフォームへの支援の拡充【再掲】
- 子どもへの安心・安全な居場所づくりの充実【再掲】
- 子どもの放課後活動の充実への支援【再掲】
- アンコンシャスバイアス解消に向けた戦略の策定とその推進【再掲】
- 若者や女性が働きやすい職場の環境整備への支援【再掲】
- 若者や女性へのスポットワークの創出への支援【再掲】

#### イ 具体的施策 2 子どもが楽しく遊ぶことができる安全で安心な施設を整備する

##### 【主な取組】

- 遊び場などの環境整備の推進  
子どもの遊び場などについて保護者等の意見を集約し、全天候型の子ども用施設や都市公園について検討して整備を進めます。
- 子どもへの安心・安全な居場所づくりの充実【再掲】

#### ウ 具体的施策 3 子どもが必要な医療を受けられる小児医療体制を充実する

### 【主な取組】

#### ●市内の小児科医療機関の充実

小児医療体制の確保・充実を図るため、市内の小児科医療機関の充実に  
向け検討し、実施します。

## 4 基本目標ⅠからⅣの施策の推進を補完する取組

- ・地域おこし協力隊の派遣先の拡充
- ・空き家・空き地の活用に対する支援の拡充
- ・地域おこし企業人等の活用
- ・ふるさと納税を活用した取組
- ・クラウドファンディングなどの資金調達の仕組みの活用
- ・公の施設等を活用した取組
- ・能登地域と連携した取組
- ・大学と連携した取組
- ・氷見市広報戦略プランに基づく取組
- ・氷見市DX推進計画に基づく取組



## 5 重点的に実施する横断的な取組

基本目標ⅠからⅣに掲げている取組の中で、特に重点的に実施する取組として、横断的に検討して実施し、より効果的・効率的に取り組めます。

### (1) 「食」や「自然・景観」を活かした魅力的なまちづくりの推進

本市の特長である「食」を核として、観光、飲食、宿泊及び農林水産業が一体となって産業振興や人材育成・確保などに総合的に取り組み、氷見の豊かな食材を活かしたホテルやオーベルジュ等の誘致を進めます。また、里山・里海を活かしたキャンプ場・コテージ等の整備やマリンスポーツなどのレジャービジネスの創出への支援、景観を活かしたホテル等の誘致や、古民家などの空き家を活用した民泊施設等の整備への支援など、魅力的なまちづくりを進めて、賑わいの創出につなげます。

#### 【主な取組】 10取組

##### ●食を核としたまちづくりの推進

食を核としたまちづくりを推進するため、体制を強化するとともに戦略を策定して、産業の振興や人材育成・確保など、総合的に取り組みます。

##### ●氷見らしい農林水産業の体験型観光コンテンツの構築

里山での果樹等の農産物や竹等の林産物の活用体験、里海での養殖による水産物の水揚げ体験など、氷見らしい体験型観光コンテンツを構築します。

##### ●豊かな食材を活用した商品開発への支援

農産物や畜産物、水産物などの氷見の豊かな食材を活かし、食のブランド化や観光客等に好まれる商品開発を支援します。

##### ●海越しの立山連峰や里山の風景などを望むホテルやオーベルジュ等の誘致

海越しの立山連峰や棚田などの里山景観と、氷見の豊かな食材を活かし、宿泊と飲食ができるホテルやオーベルジュ等の誘致に取り組みます。

##### ●自然・景観を活かしたPark-PFIの実施（導入）の検討

民間参入による都市公園等の魅力及び利便性の向上を図り、公園を核とした周辺地域の活性化につなげます。

##### ●自然・景観を活かしたキャンプ場やコテージ等の整備への支援

里山・里海の特長を活かした多くの人が訪れ、賑わいの創出につながる施設等の整備を支援します。

##### ●自然・景観を活かしたスポーツイベント・レジャーの推進

海あり山ありの豊かな自然、美しい景観を望みながら楽しめるイベントの開催やレジャーの定着を推進します。

##### ●海辺を活かした新たなビジネスの開発・運営等への支援

本市の海辺の環境を活かしたマリンスポーツなどの新たなレジャービジネスの創出や、その運営等を支援します。

##### ●食や自然・景観を活かした飲食施設や宿泊施設等の整備への支援

古民家などの空き家を活用した飲食施設や民泊施設など多様な用途への整備を支援します。

●景観を活かしたホテル等の整備の促進

空き家・空き地に関する相談から活用までに対応するため、専門家等による総合的体制を構築し、景観を活かしたホテル等の整備を促進します。

**(2) 城端線・氷見線鉄道事業再構築事業を活かしたまちづくりの推進**

氷見駅からひみ番屋街までの新交通システムを検討するほか、駐車場整備や氷見駅を基点とした二次交通等の利便性の向上、駅前周辺でのマルシェの開催やまちなかの空き地の利活用など、氷見駅周辺のまちづくりを総合的に進め、市民や氷見を訪れる人々の氷見駅周辺への人の流れをつくり、賑わいを創出します。また、氷見線の新駅設置に向けた検討と、海辺の魅力を活かした公園の魅力向上やワクワクする景観・空間づくりを推進して、沿線周辺地域の活性化を図ります。

**【主な取組】 8 取組**

●氷見駅からひみ番屋街までの新交通システムの検討

観光需要の拡大や市街地の賑わい、移動の利便性の向上に向けて、新交通システムを検討します。

●氷見線の利用促進と利便性向上を活かした賑わい空間の整備

氷見駅周辺のまちづくりを進めるとともに、駐車場整備や氷見駅を基点とした二次交通等の利便性向上を図り、賑わいを創出します。

●氷見線の新駅設置とその周辺地域の活性化に向けた検討

氷見線の新駅の設置による利便性の向上や、その周辺での開発による地域の活性化に向けて検討を行います。

●若者や女性が訪れたいまちなか活性化に向けた支援

氷見駅前周辺でのマルシェの開催や、まちなかの空き地の利活用などにより、若者や女性が訪れ、滞留する場の創出を支援します。

●若者や女性に選ばれる観光地魅力化の推進

温泉・食・景観・自然・まんが等を有機的に結合させ、氷見に行きたくない、若者や女性に選ばれる観光地の魅力化を推進します。

●自然・景観を活かしたP a r k－P F Iの実施（導入）の検討【再掲】

民間参入による都市公園等の魅力及び利便性の向上を図り、公園を核とした周辺地域の活性化につなげます。

●氷見らしさを活かしたワクワクする魅力的な景観づくりの推進

沿道での景観形成への支援や市街地での住民意向の把握を進め、人々の期待感や歓迎感等を促す魅力的な景観づくりを推進します。

●海辺の魅力を活かした空間づくりの推進

氷見の特長である海辺空間の整備と演出を支援し、人々の滞在・来訪を促進して地域の魅力を高めます。

### (3) 若者や女性が活躍するまちづくりの推進

I T系や食品系の企業・研究所等の誘致など、若者や女性に選ばれる魅力的な仕事をつくります。また、地域・職場での若者や女性へのアンコンシャスバイアスの解消や、就業環境、労働条件、子育てしやすい職場環境の改善を促すほか、住宅取得・リフォームや住宅団地造成への支援の拡充、子どもの遊び場などの整備の推進、市内の小児科医療機関の充実など、移住・Uターン・定住しやすい環境等の充実を図り、若者や女性が働きやすく、活躍できるまちをつくります。

#### 【主な取組】 10取組

- 若者や女性に選ばれる企業や研究所等の誘致  
企業立地への支援の拡充や試行的事業への支援により、I T系や食品系など、若者や女性に選ばれる企業や研究所等の誘致に取り組みます。
- アンコンシャスバイアス解消に向けた戦略の策定とその推進  
アンコンシャスバイアス解消に向けて戦略を策定するとともに、講演会の開催等により、理解の促進を図ります。
- 若者や女性のキャリアアップへの支援  
仕事の専門性向上に必要な経費を支援することで、若者や女性のキャリアアップを後押し、市内企業への就職やその後の定着を促進します。
- 若者や女性が働きやすい職場の環境整備への支援  
子育て支援や若者の採用・育成等に取り組む事業所を対象に、厚生労働省の認定制度の取得や、職場環境の整備を支援します。
- 若者や女性へのスポットワークの創出への支援  
市内事業所等の業務を細分化し、外部移管可能な業務と適した人材をマッチングさせる仕組みを構築して、柔軟な働き方の創出を支援します。
- 子どもの放課後活動の充実への支援  
放課後児童クラブの子どもの受入体制等の向上に向けて検討するとともに、子どもの放課後活動の豊かな学びの機会の充実を支援します。
- 住宅取得やリフォームへの支援の拡充  
住宅取得や住宅リフォームに要する経費への支援について、新婚世帯及び子育て世帯に対する支援を拡充します。
- 住宅団地造成への支援の拡充  
市内での住宅団地造成を行う者への支援を拡充し、住宅用地を確保して、市内での定住につなげます。
- 遊び場などの環境整備の推進  
子どもの遊び場などについて保護者等の意見を集約し、全天候型の子ども用施設や都市公園について検討して整備を進めます。
- 市内の小児科医療機関の充実  
小児医療体制の確保・充実を図るため、市内の小児科医療機関の充実に向け検討し、実施します。

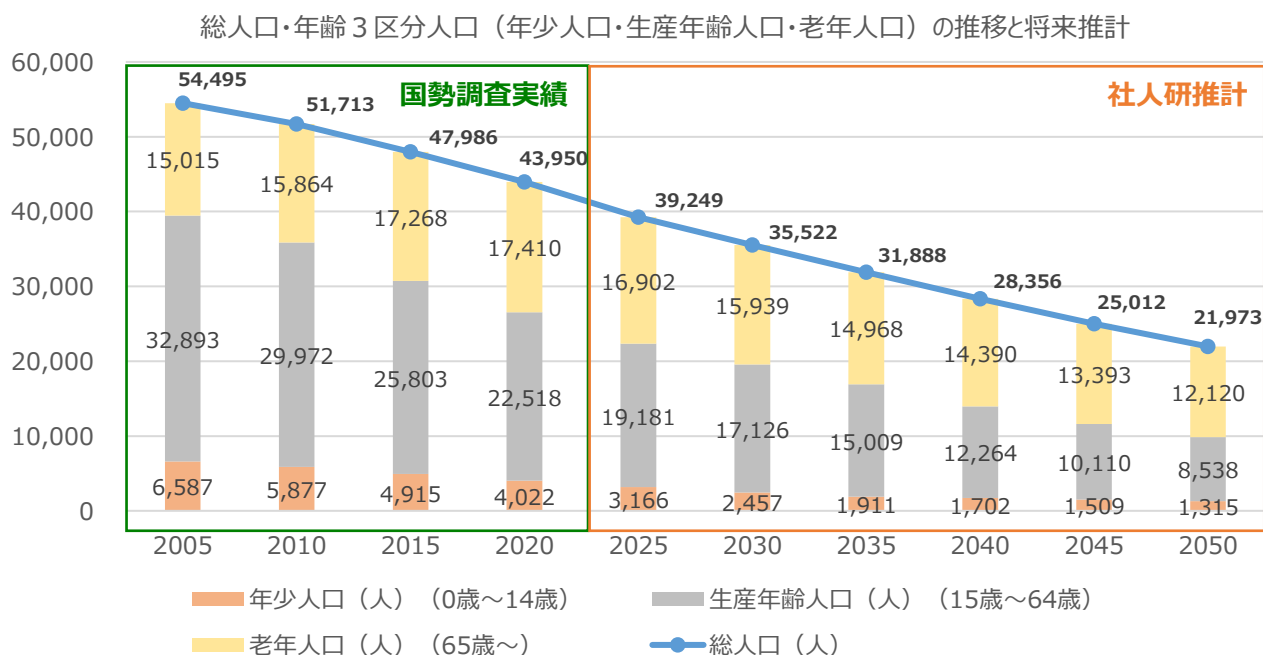
## V 第3期氷見市人口ビジョン

### 1 人口の現状と将来推計

#### (1) 社人研による推計

社人研の将来推計では、本市の人口の減少傾向は今後も継続すると予測されており、2050年には総人口21,973人となり、2020年の総人口の約56%まで減少することが予測されます。

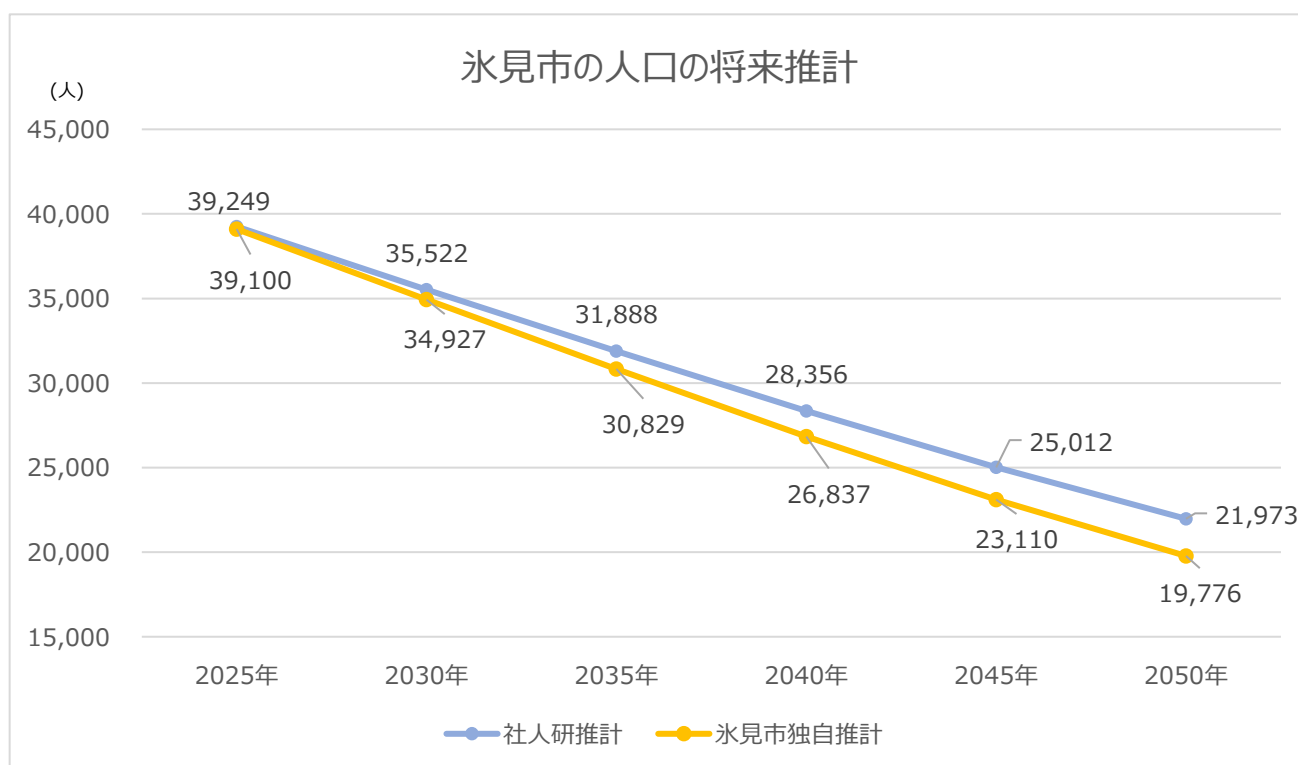
特に、若い年齢区分ほどその傾向が顕著であり、2050年の年少人口は2020年の約33%、生産年齢人口は約38%まで減少することが予想されています。また、年少人口と生産年齢の総人口に占める割合も減少し、2020年に約9%だった年少人口は2050年には約6%に、生産年齢人口は約51%から約39%になると予想されています。一方で老年人口は総人口の減少に伴い減少するものの、総人口に占める割合は約40%から約55%に増加すると見込まれており、生産年齢人口1人で1.4人程度の老年人口を支えることになるとの推計がなされています。



#### (2) 社人研の将来推計を踏まえた氷見市独自推計

社人研の将来推計を基に、令和7年（2025年）までの人口実績を反映して、2025年の総人口を39,100人（149人の減）とするとともに、社人研推計では2025年以降に適用されている若者（15歳から34歳まで）の社会移動率が、平均約8.5%の転出超過と推計されていましたが、令和7年（2025年）の若者の社会移動率が平均約22.7%の転出超過となっており、大きな乖離があることから、令和7年の若者の社会移動率を用いた本市独自の将来推計（以下「氷見市独自推計」という。）を作成し、それを基に将来の人口目標を設定することとします。

氷見市独自推計では、社人研推計よりも人口減少のスピードが早まることで、2050年には19,776人となり、2020年人口の約45%まで減少する見込となります。



## 2 人口減少が与える影響

人口減少と少子高齢化は、日本全体だけでなく地方にとって深刻な課題です。本市においても、人口が年々減少していくことは、地域の暮らし、経済、財政・行政サービス、地域コミュニティのあり方に広範な影響を及ぼします。

### (1) 経済に与える影響

労働力の減少に伴って地域産業や事業所の生産性が低下します。農林水産業・観光など、地域の基幹産業で働く人手が不足すると、供給能力の低下や新規事業の阻害を招き、地域経済の縮小が進みます。また、消費者人口が減ることで商店街や飲食店の売上が落ち、地域内での循環が弱まると雇用機会も減少し、若年層の流出を加速させる悪循環が生まれます。

### (2) 財政・行政サービスに与える影響

税収の減少と高齢化による社会保障費の増大が同時に進むため、市の財政は圧迫されます。結果として、公共施設の維持や道路・上下水道の整備、子育て・教育・医療といった行政サービスの提供が困難になり、サービス水準の低下や統廃合が避けられなくなります。特に医療・介護の担い手が不足すると、在宅医療や介護サービスの確保が難しくなり、住民の生活の質に直接影響します。

### (3) 地域コミュニティに与える影響

人口が減り若者が流出すると、地域行事や伝統文化を支える人手が減少し、祭りや地域活動の継続が困難になります。孤立する高齢世帯が増え、互助の仕組みが弱まることで、防災・防犯面でも脆弱性が高まります。同時に、空き家・空き地が増加することで防犯面だけでなく景観を損ねることにもつながります。また、学校の児童・生徒数の減少は学校統合や廃校につながり、子育て世代の定住魅力を損ないます。長期的には地域の魅力や競争力が低下し、持続可能な地域づくりが難しくなります。

## 3 目指すべき将来の方向性

今回策定した第3期総合戦略では、これら人口減少による様々な課題に対応するために、人口減少に歯止めをかけ将来の人口構造を変える「積極戦略」と、人口が減少しても幸せに暮らせるまちづくり「調整戦略」の両方の観点に基づいた取組を推進していきます。

## 4 将来の人口目標

第3期総合戦略による取組を実施することで、次のような効果が発揮されることを見込み、出生数、社会増減数の目標を設定します。

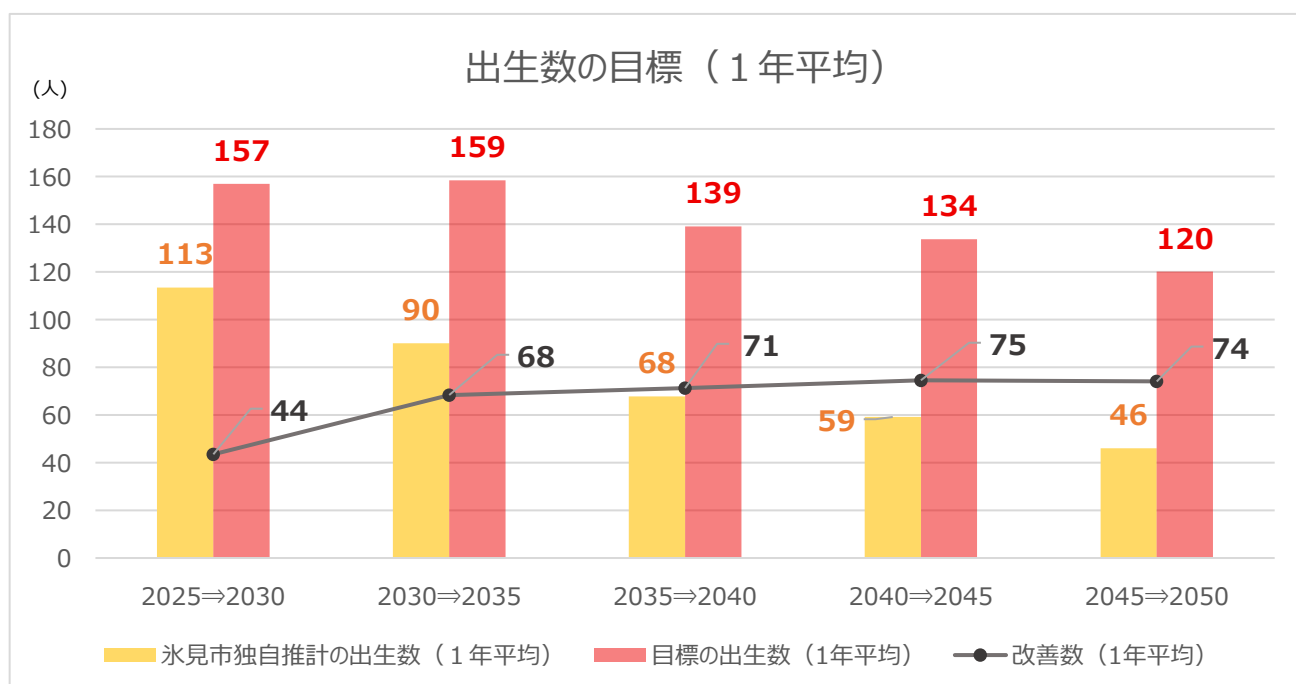
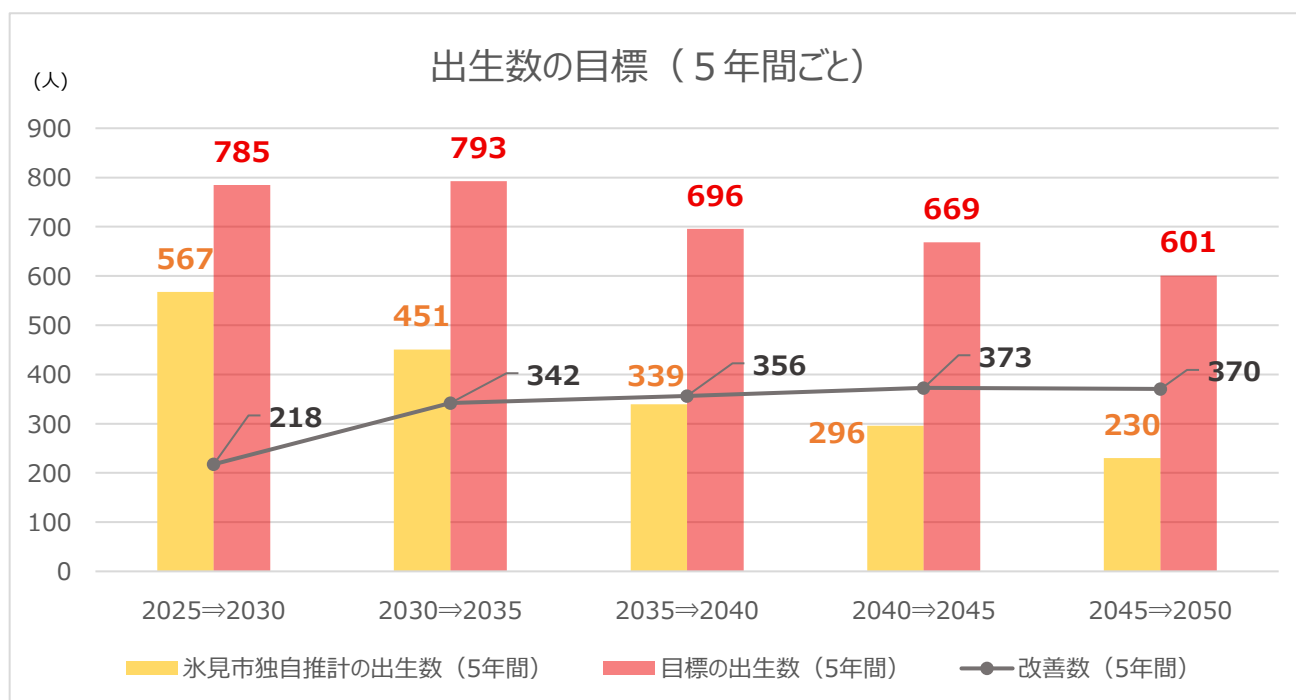
- ・住み続けたいと思う市民の割合が増加することによる定住促進（転出の抑制）
- ・市産業全体の稼ぐ力の向上と魅力的な仕事の創出による転入者の増加と定住促進（転出の抑制）
- ・若者や女性の転入者の増加と定住促進（転出の抑制）
- ・若者や女性の増加による婚姻数の増加
- ・出生数の増加
- ・子育て世帯の増加 など

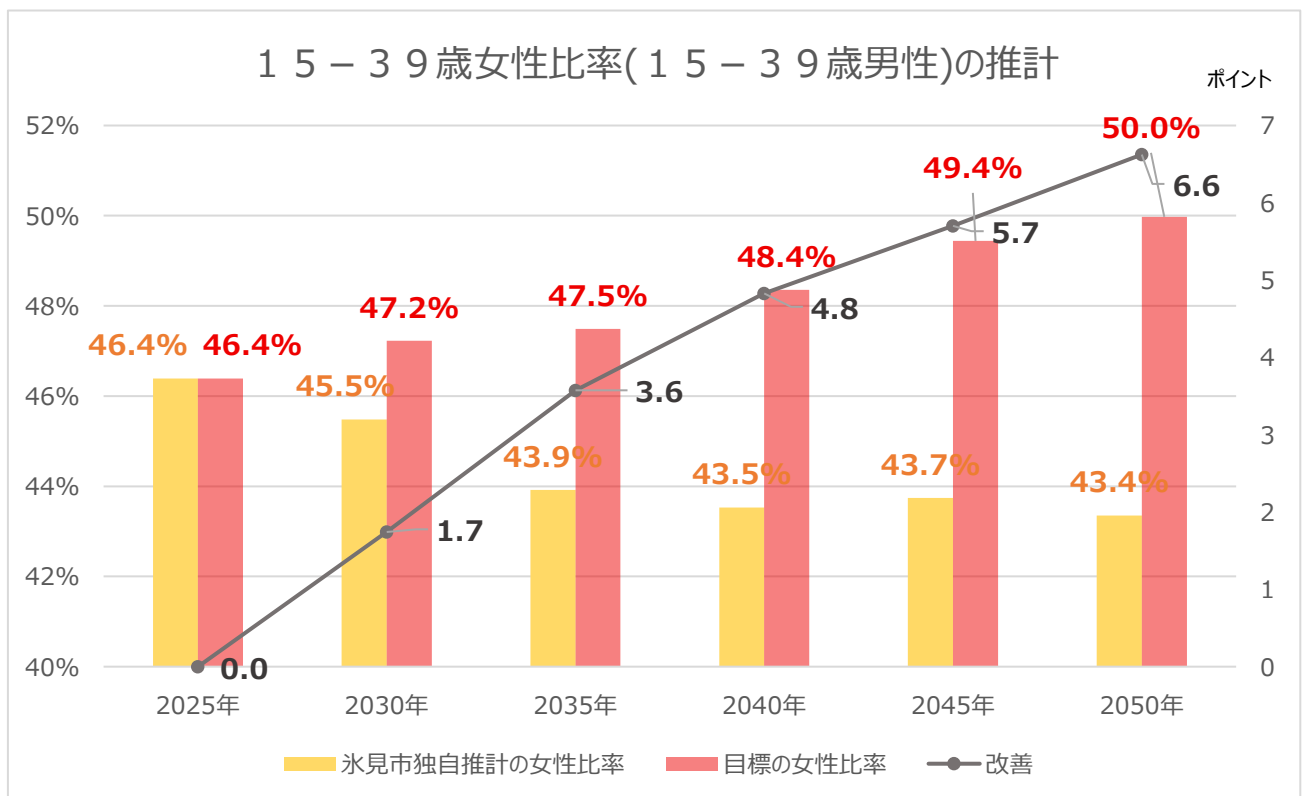
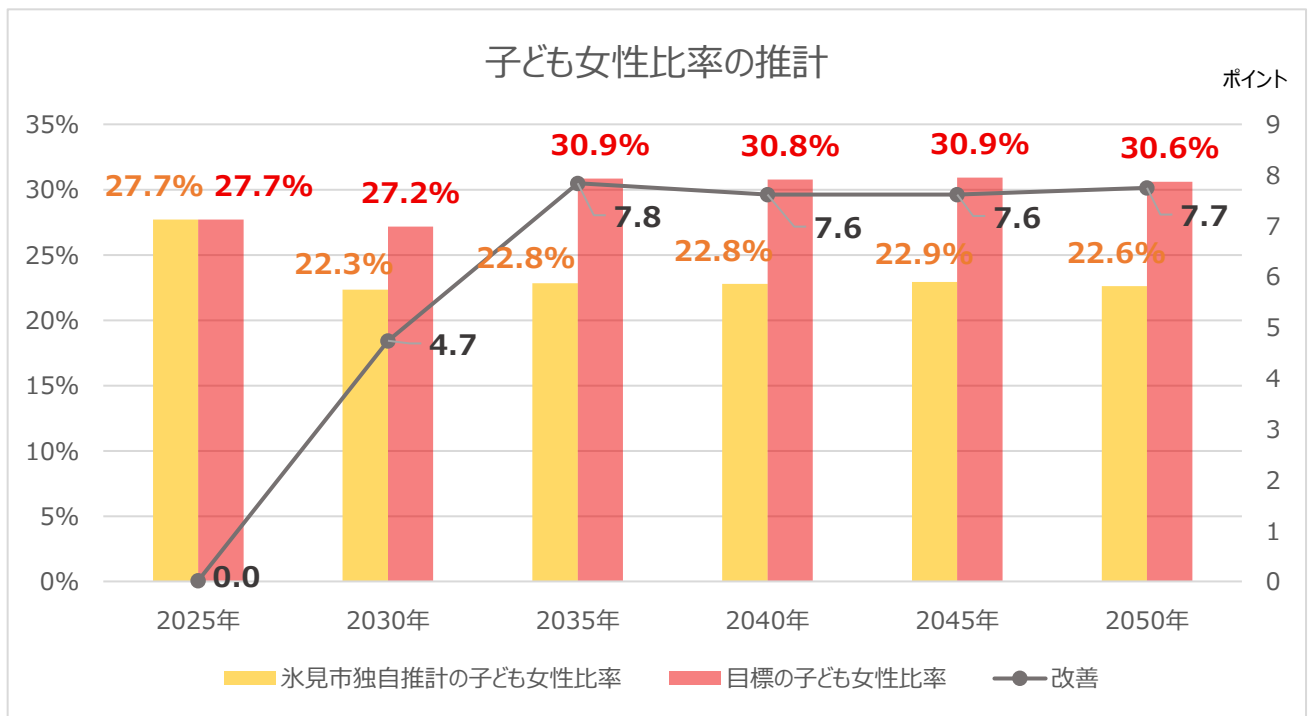
### (1) 出生数の目標

出生数については、取組の効果を踏まえた婚姻数や子ども女性比率の推計、1世帯当たりの子どもの数の推移に大きな変化がないことなどから、5年間ごとの出生数を推計し、それを1年平均したものを毎年の出生数の目標値とします。

(単位：人)

	R7 年 (2025)	R8 年 (2026)	R9 年 (2027)	R10 年 (2028)	R11 年 (2029)	計
出生数	155	156	157	158	159	785





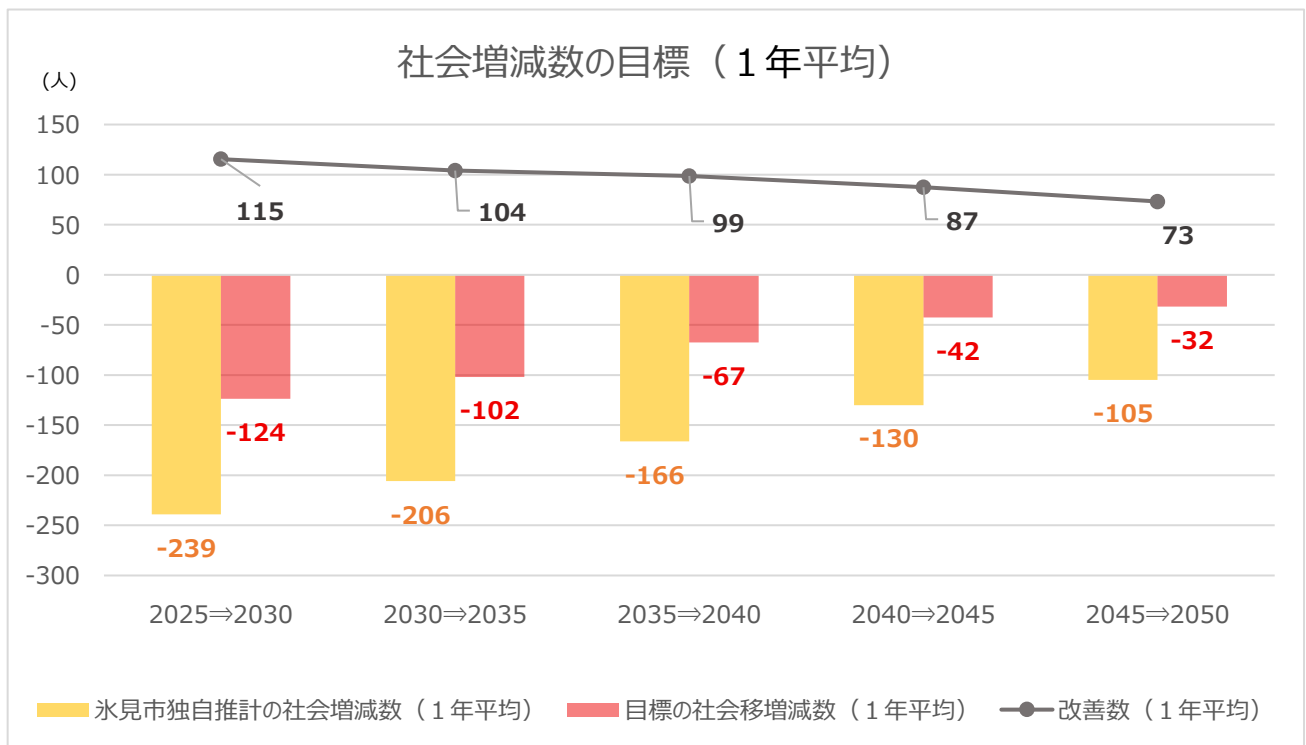
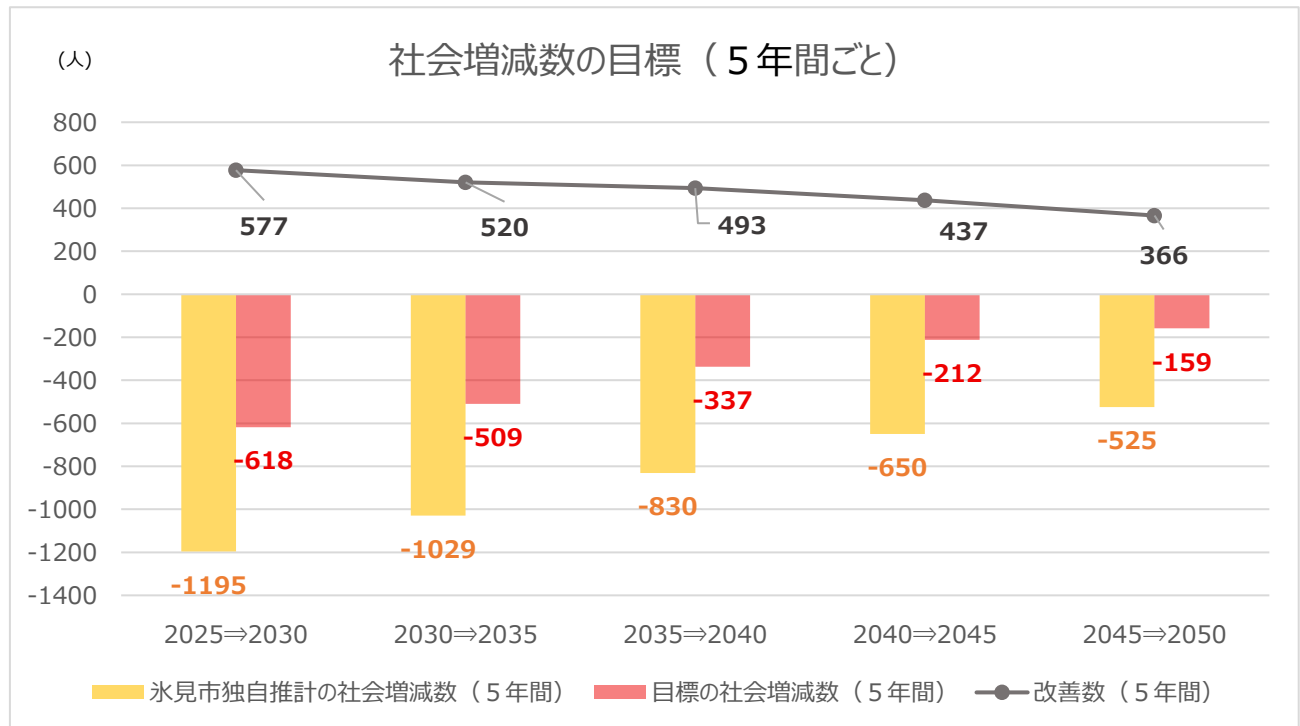


## （２）社会増減数の目標

社会増減数については、取組の効果を踏まえた転入者の増加や定住促進（転出の抑制）により、社会増減数が改善することを見込みます。５年間ごとの社会増減数を推計し、それを１年平均したものを毎年の社会増減数の目標値とします。

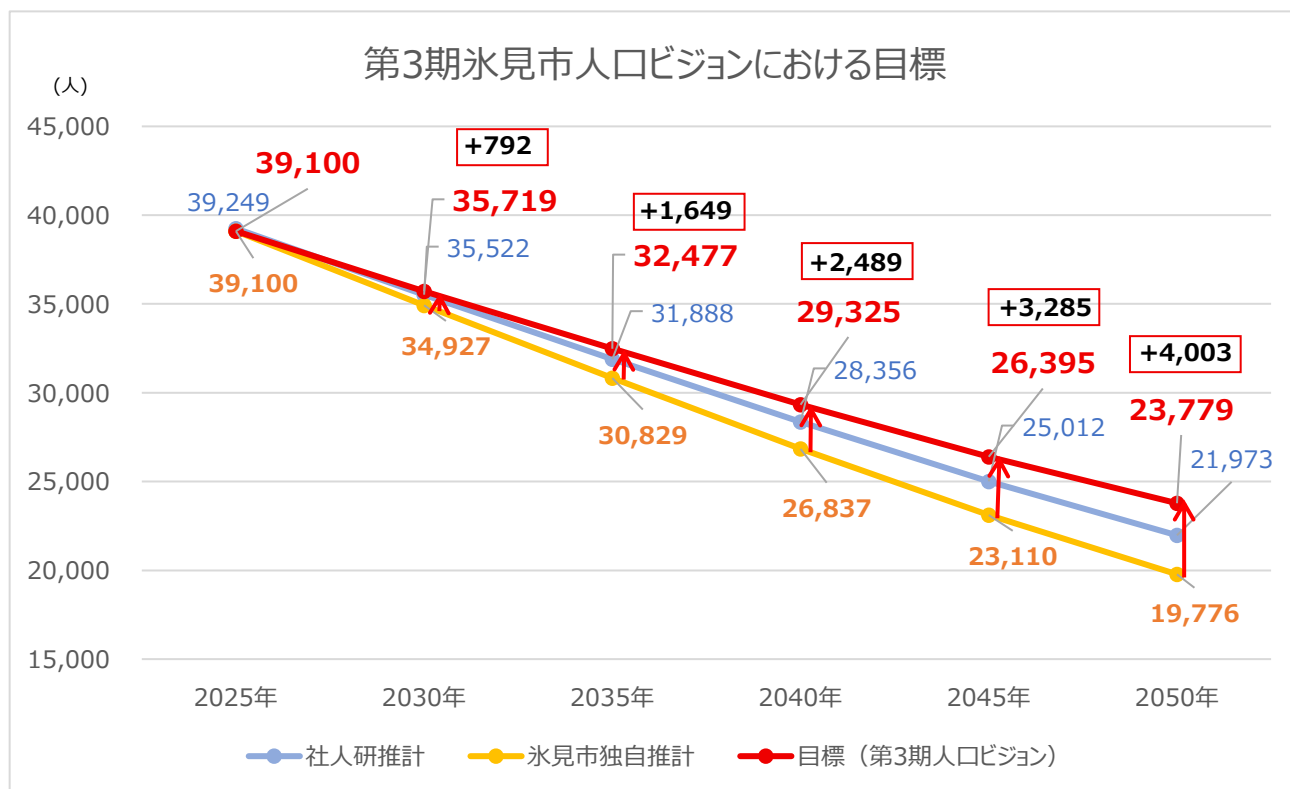
（単位：人）

	R7 年 (2025)	R8 年 (2026)	R9 年 (2027)	R10 年 (2028)	R11 年 (2029)	計
社会増減数	△123	△123	△124	△124	△124	△618



### (3) 第3期氷見市人口ビジョンにおける目標

第3期総合戦略の取組により、令和7年から令和11年までの出生数を785人確保し、社会減数を618人に抑制するとともにその効果が継続することにより、2050年には氷見市独自推計より4,003人、社人研推計より1,806人が改善され、総人口が23,779人と見込み、それ以上を目標値とします。

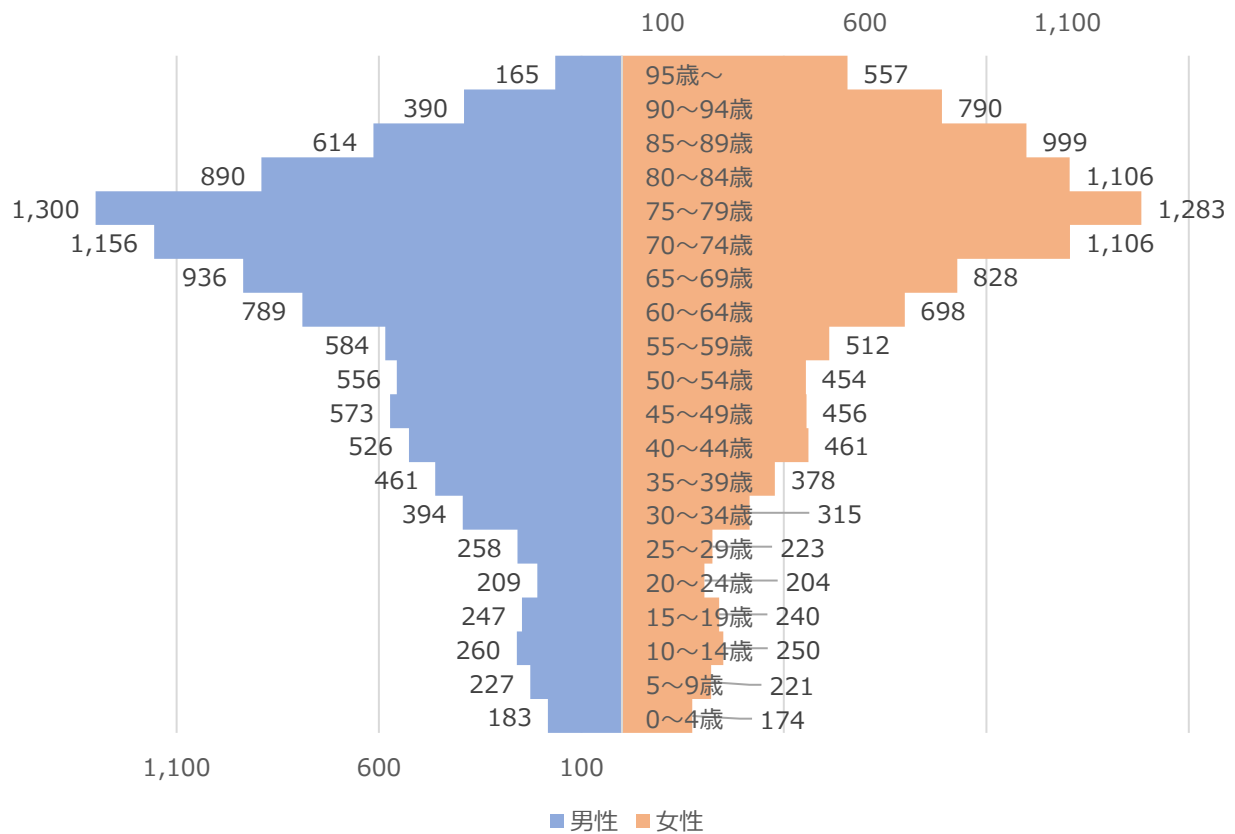


社人研推計及び氷見市独自推計による2050年の人口ピラミッドでは、逆三角形型の構造となり、将来の地域社会の維持が非常に困難なものとなります。

第3期総合戦略による取組の効果が発揮され、特に若い世代の人口が増加することで、人口構造の安定化が図られます。

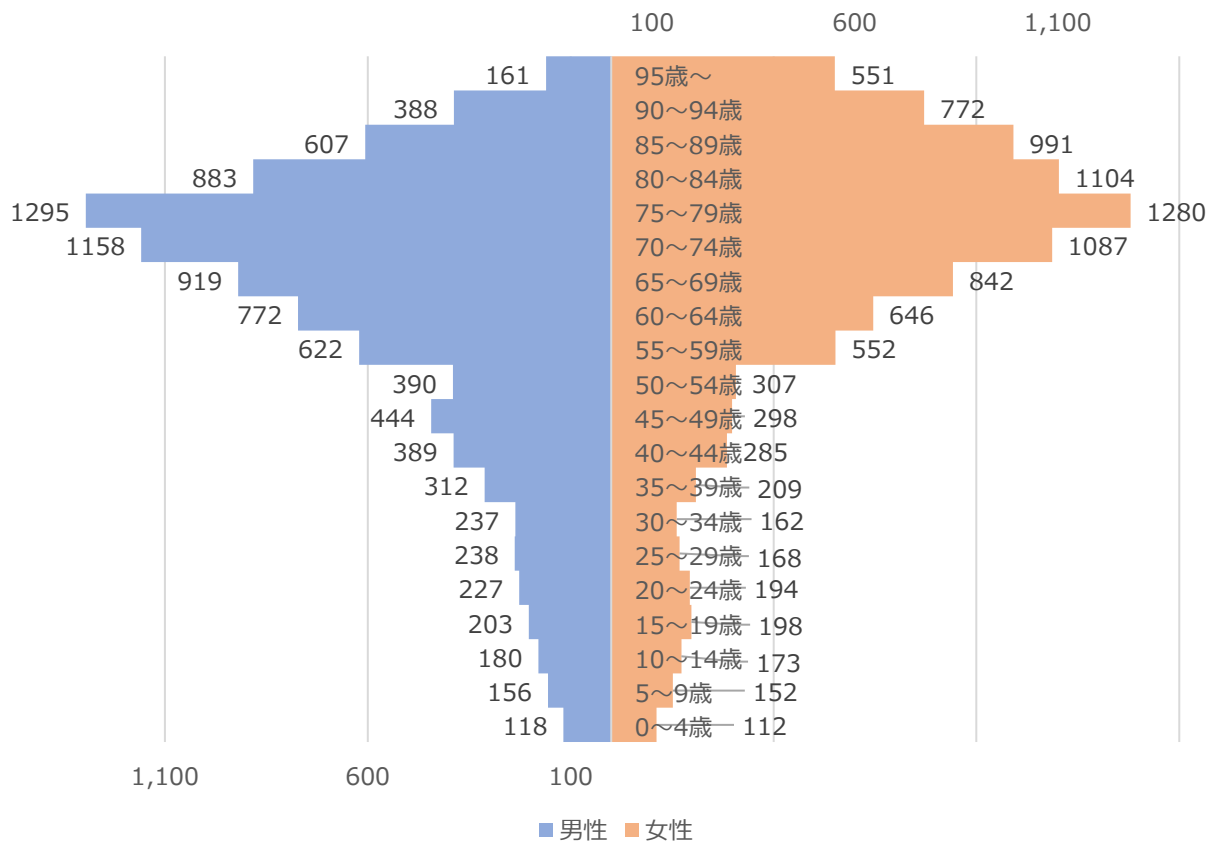
2050年人口ピラミッド（社人研推計）

（人）



2050年人口ピラミッド（氷見市独自推計）

（人）



# 2050年人口ピラミッド（人口目標）

(人)

